

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

Special Feature

vol. 71

2020
February

理事長・学長からの
メッセージ vol.14
奈良医大、奈良県とも
フルマッチを達成しました



Contents

特集

| | |
|---|----|
| 理事長・学長からのメッセージ vol.14 | 3 |
| 奈良医大、奈良県ともフルマッチを達成しました | 5 |
| JCEP (卒後臨床研修評価機構) に医師臨床研修の評価認定を受けました | 5 |
| 病院快適環境プロジェクトとしての Effective Medical Creation (EMC) の取り組み | 6 |
| 生きるを伝える写真展・パジャマ de おめかし写真展を開催しました | 6 |
| 研究紹介 | 7 |
| 未来への飛躍基金だより | 8 |
| 2019年度海外リサーチ・クラークシップ壮行会を開催しました | 9 |
| 図書館だより | 10 |
| MBT 研究所だより (第15報) | 12 |

Campus News

| | |
|---|----|
| 奈良医大有志によるソフトボールチーム「NMU ファンブルズ」の活躍 | 13 |
| ミシガン大学医学部 Family Medicine を訪問しました | 13 |
| 明日香看護学校旅行引率について | 13 |
| [クロスヘルス EXPO 2019] に MBT が出展しました | 13 |
| BioJapan2019 に出展しました | 14 |
| CEATEC JAPAN2019 で MBT 講演しました | 14 |
| 令和元年度奈良県立医科大学白檀生祭を開催致しました | 14 |
| 知財戦略デザイナー派遣事業に採択されました | 14 |
| チェンマイ大学医学部の創立 60 周年記念式典に参加しました | 15 |
| モナッシュ大学からパーハー教授、曽我准教授が来学されました | 16 |
| Japan IT Week 秋で講演しました | 16 |
| 国際交流グッズの支給について | 16 |
| MBT 連携企業の薬局全国 600 店で MBT 情報発信を行っています | 16 |
| MBT の広報戦略について | 16 |
| 着物でジャズ今井町 2019 に MBT 研究ブースを出展しました | 17 |
| 訪問看護同行実習を終えて | 17 |
| 訪問看護同行実習を終えて | 17 |
| 2019 年度第 3 回 V-iCliniX 講座運営委員会を開催しました | 17 |
| チェンマイ大学研修での学び | 17 |
| 第 17 回 国際血液代替物学会 (XVII-ISBS-2019) を開催しました | 18 |
| 西日本医学生学術フォーラム 2019 で口演発表しました | 18 |
| 組換え DNA 実験安全委員会講演会の開催 | 18 |
| 奈良県企業立地セミナーに MBT が参画しました | 19 |
| 医学部合同情報交換会に参加しました | 19 |
| 新価値創造展 2019 で講演しました | 19 |
| 令和元年度総合防災訓練を実施しました | 20 |
| 医学部医学科「Student Doctor 認定証・白衣授与式」を行いました | 20 |
| オーストラリアからの実習生を受け入れました | 20 |
| 災害医療図上訓練を開催しました | 20 |
| 奈良マラソン会場で肝炎検査受診率向上活動を実施しました | 21 |
| 第 4 回 LLPS 研究会・ASUKA 若手交流会 2019 を開催しました | 21 |
| 大阪万博に MBT を! | 21 |
| KAMPO 勉強会を開催しました | 22 |
| イノベーションストリーム KANSAI に出展しました | 22 |
| 健康長寿大規模コホート研究進捗状況報告会の開催 | 22 |
| 特別共同研究助成事業研究成果報告会の開催 | 22 |
| 第 3 回奈良臨床漢方医学セミナー (精神科領域編) を開催しました | 23 |
| ぬいぐるみ病院を通しての地域の子どものとの交流 | 23 |

Winner Report

| | |
|--|----|
| 日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定 (I & A) 制度審議会の視察員として選出されました | 24 |
| The 7th Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association で Presidential Award を受賞しました | 24 |
| 第 71 回消化器画像診断研究会において優秀ポスター賞を受賞しました | 24 |
| The 49th European Society for Dermatological Research (ESDR) Annual Meeting でポスター賞を受賞しました | 24 |
| 第 44 回リザーバー研究会最優秀演題賞 | 24 |
| 第 29 回日本耳科学会総会で初めての耳科学会優秀演題賞を受賞しました | 25 |
| 第 55 回日本医学放射線学会秋季臨床大会イメージインタープリテーション最優秀賞 | 25 |
| 日本医学放射線学会秋季臨床大会において優秀ポスター賞 (ブロンズ) を受賞しました | 25 |
| 第 29 回日本救急放射線研究会優秀演題賞 | 25 |
| 第 78 回日本めまい平衡医学会総会で優秀ポスター賞を受賞しました | 25 |
| 第 78 回日本公衆衛生学会総会において口演賞を受賞しました | 26 |
| 第 39 回日本川崎病学会・学術集会で優秀演題賞を受賞しました | 26 |
| 第 48 回かなえ医薬振興財団研究助成金をいただきました | 26 |
| 第 67 回日本化学療法学会西日本支部総会で支部奨励賞を受賞しました | 26 |
| アメリカ肝臓学会 (AASLD) The Liver Meeting 2019 において優秀ポスター賞を受賞しました | 27 |
| The 26th Asia & Oceania Federation of Obstetrics & Gynaecology (AOFOG) で Yuji Murata Endowment award を受賞しました | 27 |
| 2019 年度先進医薬研究振興財団・循環医学分野一般研究助成を受賞しました | 27 |
| 令和元年度医学教育等関係業務功労者賞を受賞しました | 27 |
| 第 33 回日本泌尿器内視鏡学会総会総会賞を受賞しました | 27 |
| 第 27 回日本消化器関連学会週間 (JDDW2019) でポスター優秀演題賞及び若手奨励賞を受賞しました | 28 |
| 第 27 回日本消化器関連学会週間 (JDDW2019) で若手奨励賞を受賞しました | 28 |
| 第 27 回日本消化器関連学会週間 (JDDW2019) で若手奨励賞を受賞しました | 28 |
| 第 27 回日本精神障害者リハビリテーション学会で野中賞 (最優秀賞) を受賞しました | 28 |
| The 17th ISBS International Symposium on Blood Substitutes & Oxygen Therapeutics (XVII-ISBS-2019) において Young Excellent Abstract Awards を受賞しました | 28 |
| 令和元年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者が決定しました | 29 |
| 令和元年度 (第 3 回) 若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定 (国際交流センター) | 29 |
| 国際ソロプチミスト奈良クラブ賞女性研究者賞を受賞しました | 29 |
| 令和元年度 外部資金獲得状況 | 29 |

Information

| | |
|--------------------------|----|
| 公開講座情報 | 34 |
| 「未来への飛躍基金」寄附金控除等の仕組みについて | 34 |

寄附者ご芳名

| | |
|-------------------------------|----|
| 「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました | 35 |
| メディア掲載情報/編集後記 | 36 |

大学統廃合の時代に「主たる大学」として存続するためには、 教職員・同窓の方々の一致団結が重要

理事長・学長 細井裕司

初めに

新年明けましておめでとうございます。本学の明るい未来のために、本年も精一杯の努力を致す所存でございますので、どうぞよろしくお願い致します。

1月6日の仕事始め式には、多くの教職員の方々に御参加いただき有難うございました。御参加いただけなかった教職員や同窓の方など関係者の方々にも、大学を取り巻く環境とそれに対する対応の必要性について、この場で改めてご理解をいただきたいと思っております。

大学を取り巻く環境：大学再編成

文科省は「〇〇大学等連携推進法人」を設立し、その下に国立大学学法人、公立大学法人、私立大学法人、研究開発法人等を包括した組織作りを推進しています（図1）。医学部を持つ大学が大学統合をする場合には2つの形があると考えられます（図2）。一つは、統合する大学の中に医学部が一つしかない場合です。大阪市立大学と大阪府立大学、静岡大学と浜松医科大学のケースがこの例となります。この場合、医学部は一つですから、ほぼ従来通りの主導権を持ち続けることができます。つまり、自分達で方向性や人事を決定できる、主権を持った「主たる医学部」として存続することになります。もう一つは、統合する大学間で医学部が複数ある場合です。名古屋大学と岐阜大学の場合は、両大学共に医学部を持っています。昨年10月21日、文部科学大臣は、名古屋大と岐阜大の運営法人を統合して発足する新法人である「東海国立大学機構」の機構長に、名古屋大学の松尾清一学長を指名しました。これにより、岐阜大学の運営のトップも、名古屋大学学長ということになりました。



大学等連携推進法人(仮称)イメージ

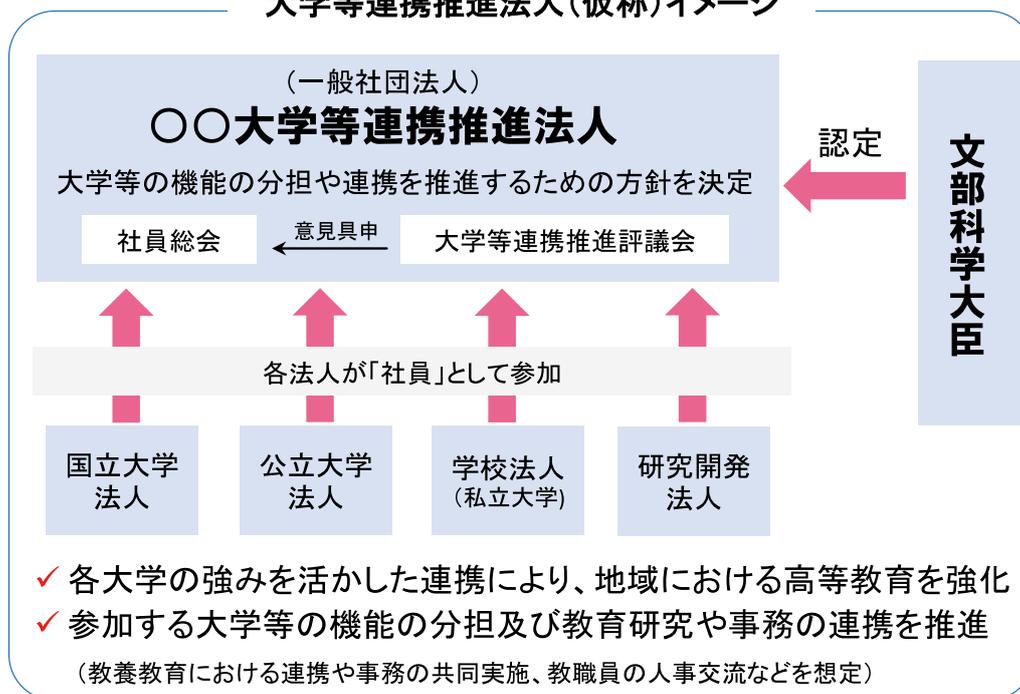


図1 2018年5月16日文科科学省「大学改革について」より

理事長・学長からのメッセージ vol.14

「主たる大学、主たる医学部」とは何か

大学、もしくは医学部として、その組織が主体的に物事を決定し遂行する権利を有すること、言い換えれば「主権を持っていること」に他なりません。人事を例に挙げてみましょう。「従たる大学」が良かれと思った人事案を、「主たる大学」の都合で否認される事が想定されます。これによって「従たる大学」にとって不適切な人事がなされる場合もあり、地域医療や職員の方々の生活にも影響が出る可能性があると考えられます。また、同窓の方々にとりましても、「従たる大学」の卒業生となることは不本意だと思います。

「主たる大学、主たる医学部」を維持するためには

教職員や学生諸君が魅力を感じ、また外部の人からも尊敬される大学になることです。即ち、全国における存在感の大きな大学になることが不可欠であると考えています。そのために、この六年間、MBT 構想や学外キャンパス設置、極めて高い偏差値の実現など他の公立医科大学が行っていない奈良医大独自の取り組みを行ってきました。

目に見える成果の実例

そのうちの一つは「未来への飛躍基金」制度の確立です。まだまだ十分とは言えませんが、荒井知事との連携や同窓会のご協力のもと、創設以来5年間で総額8億8000万円もの寄付をいただきました。本年は、この資金を積極的に活用して、さらに大学の価値を高めていく施策を実行する予定です。もう一つはマッチングの成果です。2019年度医師臨床研修マッチング結果において、本学の定員充足率が100%を達成し、また奈良県は15年間のマッチング史上初の県単位での定員充足率100%を達成しました。これは本学卒業生が奈良県内で研修することに魅力を感じ、県内に残ることを選択した医師が増えたことが大きな要因であると考えています。この様に、これまでの努力が徐々に実を結び、目に見えた結果として現れています。昨年10月には、奈良県立医科大学学長選考会議より、学長として「大学運営・改革に着実に成果を上げている。」との評価を頂きましたが、これも一重に皆様方のお陰と深く感謝申し上げます。

最後に

「主たる大学」として存続するために、全奈良医大が一致団結して、「主たる大学」として存続する強い意志を持つことが重要だと考えています。20年後の奈良医大を決めるのは今いる私たちです。現教職員にとっても、同窓の方々にとっても、とても大切な奈良医大の未来を明るくするために頑張って参りますので、皆様方におかれましては、より一層のご協力をお願い申し上げます。

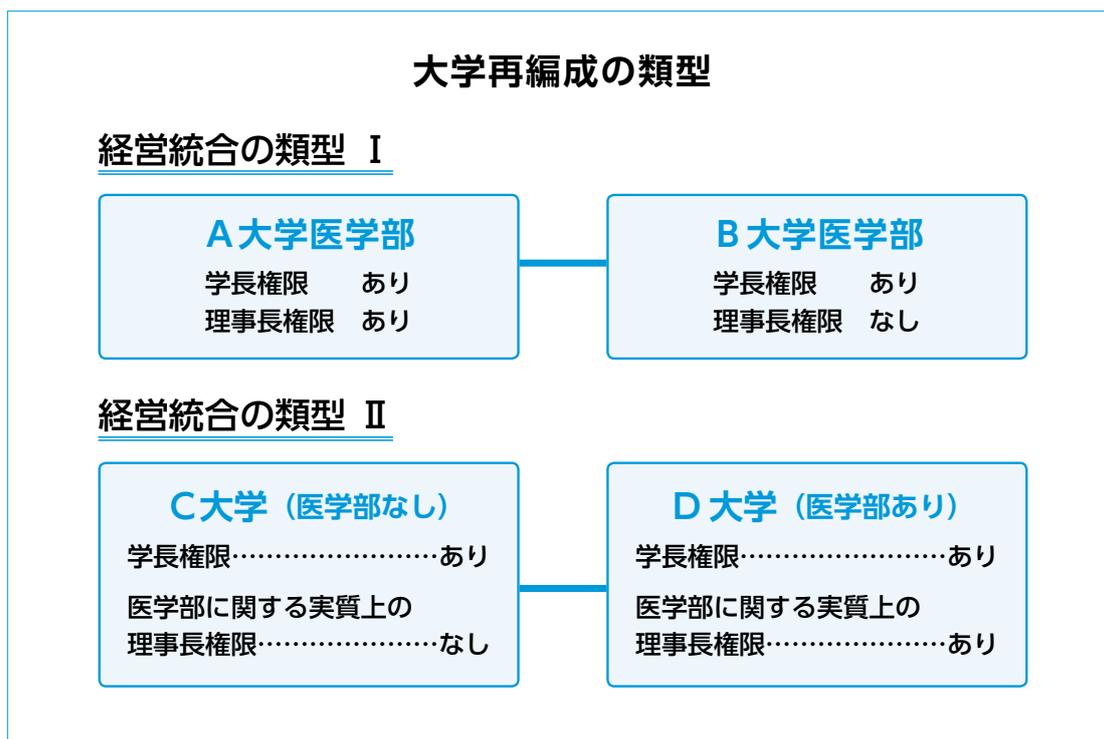


図 2

奈良医大、奈良県ともフルマッチを達成しました

令和元年10月17日に、医師臨床研修マッチング結果が発表され、当院では2年ぶりにフルマッチを達成しました。フルマッチとは、病院の募集定員が全て充足される状態のことです。

ここで、医師臨床研修制度をあまりご存知でない方のために、マッチング制度についてご説明します。医学部を卒業して医師国家試験に合格した後は、原則としてすべての医師が臨床研修病院において2年間の初期臨床研修を受けなければなりません。学生が臨床研修病院を選択するためには、「医師臨床研修マッチング」に参加する必要があります。マッチングとは、臨床研修を希望する学生と、臨床研修を行う病院がお互いを順位付けし、「医師臨床研修マッチング協議会」にて定められている「アルゴリズム」という規則に基づいて組み合わせが決定されるシステムです。

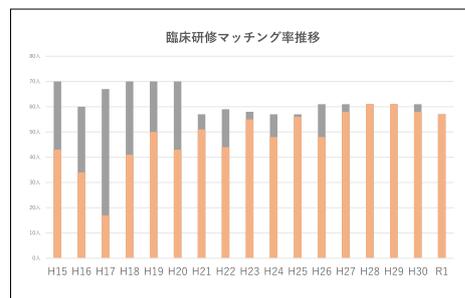
当院では、平成16年度の新医師臨床研修制度発足以降、マッチング率が20%台から70%台の時代が数年続いております。しかし、平成21年度以降は、概ね80%以上の高いマッチング率を維持しており、平成28年度には初めて「フルマッチ」を達成しました。続く平成29年度にもフルマッチを継続しましたが、平成30年度にはフルマッチには3名届かな

い状況でした。

そして、今年度は、当院のみならず、奈良県内の10の臨床研修病院全てがフルマッチするという、「全県フルマッチ」を達成することができました。これは、マッチング制度発足後、どの都道府県も達成できていなかった快挙です。

奈良県は、直近5年間の都道府県別マッチング成績では常に5位以内に入っており、5年間平均でも京都府に続く3位と、非常に優秀な成績をおさめています。これは、奈良県内の各病院における個別の努力はもちろんのこと、奈良県全体で医師を確保しようという協力体制の賜物でもあります。

臨床研修センターでは、長期的かつ俯瞰的に、当院をはじめとする奈良県全体の医師確保という大きな目標に向け、積極的に取り組みを進めております。今後とも皆様のご協力をお願い致します。



JCEP（卒後臨床研修評価機構）に医師臨床研修の評価認定を受けました

医師臨床研修制度は概ね5年間隔で改正が行われており、令和2年4月にも大きな改正が予定されています。改正点の一つに、「第三者による評価を受け、その結果を公表することが強く推奨される」という項目が追加されたことから、制度施行に先駆け、10月17日に卒後臨床研修評価機構（JCEP）による外部評価を受審し、11月26日付で認定されました。

当日は、プログラム運営側への合同面接調査に始まり、午後からは現場訪問調査として、救急外来、総合診療科外来・病棟、小児科病棟、中央臨床検査部、薬剤部、診療情報管理室と、非常に多くの部門を対象に調査が行われました。

また、訪問調査の後は、研修医および指導医へのインタビュー調査が行われ、一日を通して非常にタイトなスケジュール進行となりました。

当院の医師臨床研修制度は、平成16年度に新医師臨床研修制度が開始されて以降、現場レベルでは質の高い臨床研修医への指導を実施して頂いておりますが、評価基準に定められている詳細な部分については未整備の部分も多く残存しておりました。

このため、今回の受審を契機に、今まで十分に整備できていなかった事項についても標準化を目指すこととしました。限られた準備期間ではありましたが、関係診療科および部門の多大なるご協力を頂き、今まで整備できていなかった部分も含め

臨床研修制度に関する仕組みを評価頂ける水準まで引き上げることができ、終了後の講評でも評価者から前向きな言葉を頂くことができました。ご協力頂きました皆様方、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

臨床研修センターでは、著名な外部講師を招聘して講演頂く「Dr.Nプロジェクト」などのソフト面に加え、アメニティ向上などハード面の環境整備にも積極的に取り組んでおります。今後は、各診療科の指導医の先生方をはじめ、メディカルスタッフ部門や事務部門ほか、病院全体のさらなるサポートをいただきながら、法人の将来像にも定められている「良き医療人」の礎となる臨床研修医を育成したいと考えております。今後とも、円滑な医師・歯科医師臨床研修制度運営に引き続きご協力賜りますよう、何卒宜しくお願い致します。



病院快適環境プロジェクトとしてのEffective Medical Creation (EMC) の取り組み

奈良県立医科大学 麻酔科学教室 教授 川口 昌彦

入院するだけで、活動量の低下、ストレスや不安の増加、五感刺激の低下などにより、免疫能や認知機能が低下し、早期回復や退院後の生活機能の低下が引き起こされます。入院中であって通常の生活と同様に五感と想感を刺激する快適環境を提供することで、少しでも早期かつ良好な回復を推進したいと考えています。また、快適環境整備は、患者さんのみならず患者さんの家族や医療スタッフのストレス軽減にもつながり、コミュニケーションの改善などによる医療安全や質の向上にもつながると考えています。

奈良県立医科大学附属病院では2016年より麻酔科学教室 川口昌彦と、総合デザイナー協会 武澤恵理子理事、ネバダ大学集中治療部の重光秀信先生（現：東京医科歯科大学集中治療 教授）と病院快適環境整備に関するEffective Medical Creation (EMC) プロジェクトを立ち上げ、けいはんなリサーチコンプレックス事業として活動しています。2017年には集中治療室に同志社大学理工学部インテリジェント情報工学科 三木光範先生との共同研究として疑似窓の設置をしました。2018年には、集中治療部の1室にデザインコンセプト

ルームとして、刺激と癒しを提供できる環境を構築し、その効果を検証しています。Art of Medicineをテーマに、“見えない美学と見せない美学の快適空間”の創出にも取り組んでいます。2019年にはアトモフ社と共同で病院外のリアルタイムの映像を疑似窓（デジタルウインドウ）としてオンライン配信できるシステムを構築しました。集中治療室での設置の他、脳神経内科 杉江和馬先生との共同研究としてC棟5階病棟にも設置し、その効果の検証を予定しています。EMCは、様々な角度からの五感を刺激するアプローチが可能であり、関連の企業の皆さんとともに、患者さん、家族、医療者にとって、医療として有効な快適環境を構築できればと考えています。



デザインコンセプトルーム



疑似窓

生きるを伝える写真展・パジャマdeおめかし写真展を開催しました

10月16日～11月2日まで、「生きるを伝える写真展」を開催しました。この写真展は、乳がんや脱毛症などで髪の毛を失われた方々の写真展で、二児の母でヨガインストラクターとして活躍されている高橋絵麻さんが、自分の“生きる”と向き合ってほしいとの想いから「旅する写真展」として全国各地で開催されているものです。高橋さんは、自らががんサバイバーであり、2015年10月に右乳がんステージ3aと告知を受けています。

初日の16日には、高橋さんをお招きし、ミニトーク&ヨガを開催しました。トークイベントでは、合間にヨガを取り入れていただいたのでリラックスしてお話を聞くことができ、生きるとは「何か」を考え、病と向き合う方々にも勇気を与えてくれるようなイベントとなりました。

11月5日～12月15日までは、「パジャマdeおめかし写真展」を開催しました。この写真展は、入院中でもおしゃれをして生き生きと過ごしていただきたい想いで企画しました。当院の通院、入院患者さんからモデルを募集し、12名の応募がありました。写真撮影に参加いただいた方は、お義父さんとお嫁さん、ご主人が応募されたご夫婦などです。おめかしには、当院のサロン「ANCS（アートネチャー）」様よりウィッグ、ワコール様よりパジャマをご提供いただき、メイクと写真撮影は、プロの方にお願いました。おめかしをされた患者さんからは、「とっても楽しかったです。うれしくて涙ものでした」、「かわいくしてくれ

てありがとうございます。このイベントに参加できてうれしかったです」、ご家族の方からも、「良かったヨ！キレイやった!」、「長期入院で心が晴れ、天からごほうびを頂いた様です」、「主人のうれしそうな顔を見て大変うれしかったです」など嬉しいご感想をたくさんいただきました。

これらは、本学附属病院の医療安全・質評価・教育対策プロジェクトで立ち上げた病院快適環境プロジェクトで企画したもので、今後も、患者さんや職員に喜んでいただける企画を検討していきたいと思っています。

最後になりましたが、ご参加いただいた患者さん、ご協力いただいた関係者の方々に深く感謝いたします。



心エコー図のあけぼの： 非侵襲的計測手法による心機能研究



教育開発センター 藤本眞一

学生時代、3年次の生理学での「血行力学」の講義、6年次の病態検査学での「心音図、心機図」の講義に興味を持った。心臓の機能を数値として計測できることに感動した。また、自分で購入して読んだバーチとウインザーによる「臨床心電図学」には特に興味を持った。そのようなことで、循環器内科を志して、故石川兵衛教授のおられた第1内科に入局した。石川先生が診察室で患者に向き合う後ろ姿に私の理想の内科医師像を見たことも大きく影響した。その後長い付き合いになる心エコー図に興味を持ったのは、卒業であった。当時の心エコー画像は、とても見づらく、「闇夜のカラス」と言われていた。真っ暗な心エコー室で心エコー図の機械（巨大なので「バベルの塔」と呼ばれていた）の画面に映る闇夜のカラスのような、ぼんやりとした粗い画素の心臓の輪郭を先輩の肩越しに見ていた。もちろん、自分で心エコーの機械を触るのは、患者さんの検査が済んでからであり、夕方になって、誰もいなくなってから自分で自分の心臓を見ていた。

心エコー図の世界観にコペルニクス的転回を引き起こしたのは、リアルタイム・カラードプラ法の開発である。これは、心臓の中の血流をリアルタイムで画像として表す画期的な発明である。私の卒業した翌年の1982年に日本の研究グループによってリアルタイム・カラードプラ法が世界超音波医学会で発表されている。それでも、私がこの機械を目にするのはもう少ししてからのことであった。その時には、私がようやく慣れ親しんでいた「心音図法」という検査法が姿を消すことになった。それまで心音図で診断していた病名が、カラードプラ心エコー図法を行って、実は、間違っていたということが度々あった。これは、大変なことで、これまで循環器の大家が聴診や心音図で行ってきた診断が、わずか卒業数年の私のような駆け出しの循環器内科医の心エコー図診断で覆されたのである。私は、心エコー図検査の魅力にとりつかれた。

心エコー図法の進歩は、コンピュータの進歩に依存している。すなわち、次々コンピュータが進歩し、心エコー図の機械が新しくなり、学会の中心にいる方々が新しい心エコーの機械を用い、新しい心機能指標を計測し、新しい基準で解析して発表して、論文が出され、循環器内科の教科書が塗り替えられた。

心臓の中の血流は、物理学の法則によって規定されている。私が学生時代に感動した血行力学が、目の前に見て取れたので

ある。心内血流現象は、心エコー・ドプラ法で計測出来、流体力学の法則に従って解釈出来た。私は一生懸命計測し、それらを統計処理し、傾向を纏め、報告し、論文にした。私の得意な作業だ。特に、これまで、すでに計測され尽くしている心臓の収縮機能でなく、当時まだよくわかっていなかった拡張機能を、種々の疾患で、特に他の研究者が測っていない疾患で測った。測ったデータを統計処理し、傾向を纏め、報告し、論文にまとめた。英国まで遠征して計測し、論文にまとめた。

そのうち、私は、「はた」と疑問に思った。一生懸命計測している計測値が、物理学の法則に支配されているならば、心臓の中の血流は計算して求めることが出来る。コンピュータ・シミュレーション（数値計算流体力学）の心機能研究への応用である。幸い、多くの物理学の専門家に手伝わってもらって、心内の血流を3次元で計算して作ることに成功した。計算された血流を見ていると、今まで、見えなかった血流が見えた。心臓の中で回転しながら大動脈に流れこみ、そのまま、軸流となって大動脈の中を流れていく血流の源を心臓の中に見ることが出来た。また、多数の患者さんの心臓の動画を経時的にコンピュータに蓄積し、これを並べて見ていくと面白い傾向に気付いた。患者さんの心機能の時間的経過は、シミュレーション工学の手法を用い、初期条件を決めると、一定の時間経過を示す。すなわち、シミュレーションの手法を用いて患者の心機能の予後を予測し、動画で示すことが出来た。AIという言葉はまだあまり知られておらず、Simulation Based Medicineという言葉が流行らせようと思った。2000年頃のことである。

今後も、画像を用いた心機能研究は、コンピュータの進歩で、果てしなく発展していくであろう。見えなかった世界が見える喜びを味わえることはすばらしい。幸い、近い将来、コンピュータの記憶容量は飛躍的に増加することであるから、私が経験できた以上に、これからの若い研究者は、心エコー図、MRIなどの心臓画像による心機能研究のめざましい発展を見ることが出来る。私も出来る限り、この発展を見ていきたいと思っている。

未来への飛躍基金だより

平素より「未来への飛躍」基金に対しご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

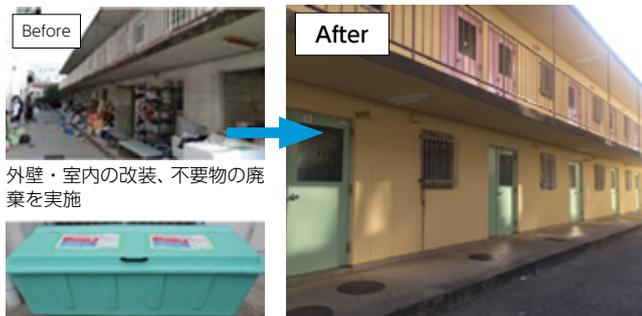
今号は、学生への支援についてご報告させていただきます。1つ目はクラブ活動への助成についてです。基金では、クラブ活動支援の一環としてクラブ棟の老朽化対策や、環境整備に力を入れております。体育会の学生より、今までの助成事業によって環境面で大変使いやすくなり、各クラブの意識も変わり、全体でクラブ棟を綺麗に使っていききっかけになった、との声をいただいております。今年度は、学生の意見も反映させ、ハード面ではクラブ用洗濯機の買い替え、ウォータークーラーの設置、体育館へ扇風機の設置などを進めております。またソフト面では、「西日本医科学生総合体育大会（西医体）」への参加費の補助を行いました。競技別では、陸上部の女子5,000mが大会新記録で優勝、男子バレーボール部が3位となるなど、日々の努力の成果を存分に活かし、悔いの無いように頑張ってくれたことと思っております。もちろんクラブ活動で得られるものは結果だけではありません。

学生にとって、生活を有意義なものにし豊かな人間性を培っていくためには欠かせないクラブ活動を、基金では応援しております。

2つ目は学外への留学や臨床実習についての助成についてです。昨年度は医学科看護学科合わせて49名の学生が基金の助成制度を活用しております。

助成制度の中でも、基金より宿泊費の一部を助成しております。リサーチ・クラークシップへの助成事業では、毎年多くの学生が国内外へ約10週間の研究留学をし、今年度は海外の研究室へ行く学生が10名います。

普段と違う環境に進んで自らの身を置くことで、多くのことを学ぶことができます。基金事務局では、その貴重な経験を学生自身の今後の勉学、研究活動に活かしてくれることと期待し、今後も「現在」だけでなく、学生の「未来」に繋げていけるような事業に助成させていただくこととしております。



ゴミコンテナ設置

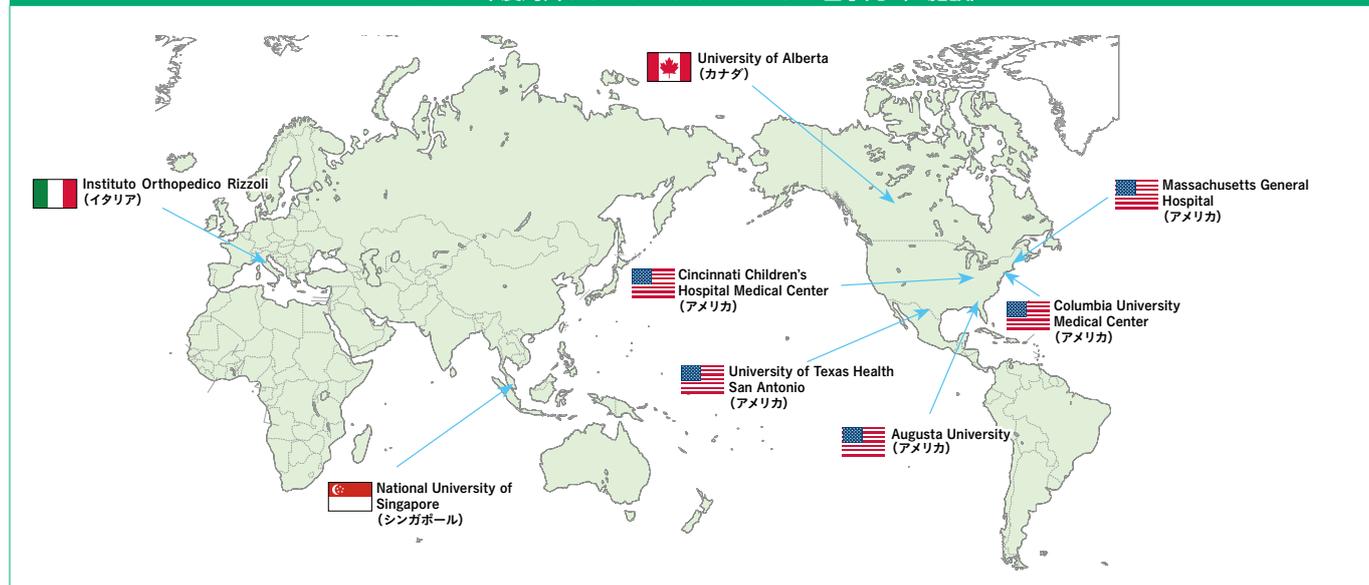
クラブ棟の改修



西医体（陸上部）

これからも引き続き、教育・研究・診療活動へ支援していくとともに臨床研究中核病院承認取得への取組、更に今後、キャンパス移転に伴う施設整備にも基金を拠出する予定です。本学が全国的に存在感のある大学として、何十年も存続していくためには皆様からの継続的なご協力・ご支援が不可欠です。今後も引き続きご協力を賜りますようお願いいたします。

2019年度海外リサーチ・クラークシップ留学先（8施設）



奈良県立医科大学総務課基金推進係 TEL : 0744-23-9973 (直通) E-mail : hiyakukikin@narmed-u.ac.jp

2019年度 海外リサーチ・クラークシップ壮行会を開催しました

2020年1月～3月で海外の研究室に留学中の医学科2年生が、12月20日開催の壮行会で研修への意気込みを述べました。

*リサーチ・クラークシップとは、医学科2年生を対象としたプログラムで、早期に国内外の研究施設に参加することにより、研究マインドを育てることを目的としています



壮行会後の集合写真

MESSAGE

基礎教育部長
吉栖 正典
(薬理学教授)



リサーチ・クラークシップも今年で4年目になり、今年度は10名の学生が海外に派遣されることになりました。令和元年12月20日に壮行会を行い各自が抱負を述べ、この学報が配布される頃には海外留学の真最中という事になります。未来への飛躍基金の援助を受けてこのような教育プログラムが実施可能になりましたが、帰国した学生に接するとひとまわり成長されたことが実感されます。彼らは海外留学前に各研究室でトレーニングを受け、帰国後も研究を続けます。お世話になる先生方もおられると思いますが、彼らの将来を温かく見守っていただけますようお願いいたします。

医学科2年 竹下 沙希

USA

所属研究室：生体分子不均衡制御学
海外留学先：Columbia University Medical Center

本学では生体分子不均衡制御学共同研究講座に所属し、トランスポーターの研究を行っています。トランスポーターは近年、創薬標的として注目を浴びている生体膜を超えた物質輸送を司る膜タンパク質です。研究室では先生方の手厚いご指導の下、DNAクローニングや細胞培養技術などの基本的なベンチワークに加え、トランスポーターの精製、人工膜小胞への再構成などを行っています。所属研究室での事前トレーニングに引き続き、留学先ではトランスポーターの物質輸送の分子機構と構造について生化学的、生物物理学的手法を用いて研究を行う予定です。



トランスポーターの人工膜小胞への再構成を行っている様子

所属研究室・海外留学先紹介

医学科2年 洪 永鎮

Italy

所属研究室：分子病理学
海外留学先：Istituto Orthopedico Rizzoli

分子病理学に所属させていただいている2年生の洪と申します。この度、リサーチ・クラークシップという制度を通じて、ポーランドのIstituto Orthopedico RizzoliのLaboratory for Orthopedic pathophysiology and regenerative medicineで研修を積むことになりました。この研究室は、インプラントに対する反応を見る等のいわゆる整形外科的な実験や、様々な条件下で骨肉腫の発生・浸潤・増殖様子を見て、機序の解明に近づき、臨床に役立てることを目的とした病理学的な実験を、臨床と密接に連携をとりながら行っています。事前研修では、基本的なPCRや細胞培養に伴う手技を、ゆくりでも誤差の無いように、コンタミが起らないように行うようにする経験を積ませていただきました。



分子病理学 第3実験室にて

医学科2年 山田 愛

Canada

所属研究室：未来基礎医学
海外留学先：University of Alberta

私は1月から3月中旬までの間、カナダのエドモントンにあるアルバータ大学のClinical Islet Laboratoryで実習を行わせていただきます。エドモントンは膵島移植の標準プロトコルが生まれた地であり、世界一の膵島移植症例数を維持しています。リサーチクラークシップの期間中には実際に膵島移植を見学させていただいたり、膵臓の発生・解剖について学んだりさせていただく予定です。また、奈良県立医科大学では未来基礎医学に所属させていただいており、膵島移植に関する論文を読んで膵島移植に関する知識をつけると同時に統計解析向けのプログラミング言語であるRについて学ばせていただいております。



Rについて勉強しています

医学科2年 山田 航大

USA

所属研究室：循環器内科学
海外留学先：Cincinnati Children's Hospital Medical Center

僕が受け入れていただくのは、Division of Experimental Hematology and Cancer Biology, Cincinnati Children's Hospital Medical Center という Mei Xin 先生のラボで、アメリカのオハイオ州にあります。このラボでは、血液学、癌、遺伝子治療研究に取り組んでおり、血液細胞形成と機能に関する生物学を理解し、癌の病因と病理を解析することを目的としています。また、現在大学では循環器内科に所属しており、尾上先生と井岡さんの指導のもと実験しています。RNA抽出からリアルタイムPCRや、タンパク抽出からウェスタンブロットティング、またマウスのサンプリングや免疫染色などを事前研修としておこなってきました。



尾上先生に免疫染色の指導をしていただいているところ

医学科2年 原田 安美

USA

所属研究室：未来基礎医学
海外留学先：University of Texas Health San Antonio

私はアメリカ テキサス州 UT Health San Antonioにある藤川先生の研究室で、2ヶ月間研修をする予定です。こちらでは、インスリン欠損下および運動時、更には低酸素下、低温下などという特殊な代謝環境下での中枢神経系の適応応答制御についての研究が行われています。リサーチクラークシップの準備として、本学の未来基礎医学で1年間の研修を行いました。研修前半には、実験手技技術の獲得、論文読解、脳オルガノイドの培養に取り組みました。研修後半には、scRNAseqを用いた視床下部に特異的に発現する遺伝子の解析に取り組みました。2回生という知識も少なく未熟な時期にも関わらず、受け入れてくださる藤川先生の研究室の皆様、また、一から指導をしてくださった未来基礎医学の先生方、先輩方には感謝の気持ちでいっぱい입니다。



未来基礎医学にて

2019年度海外リサーチ・クラークシップ留学先 (8施設 10名)

- Augusta University (USA)
- University of Texas Health San Antonio (USA)
- Columbia University Medical Center (USA)
- Massachusetts General Hospital (USA)

- 若山 勝紀
- 原田 安美
- 二川 真由
- 竹下 沙希
- 森 祐貴

- Cincinnati Children's Hospital Medical Center (USA)
- University of Alberta (Canada)
- Istituto Orthopedico Rizzoli (Italy)
- National University of Singapore (Singapore)

- 山田 航大
- 山田 愛
- 喜多 真由
- 洪 永鎮
- 時 永志帆

図書館ニュース 2019

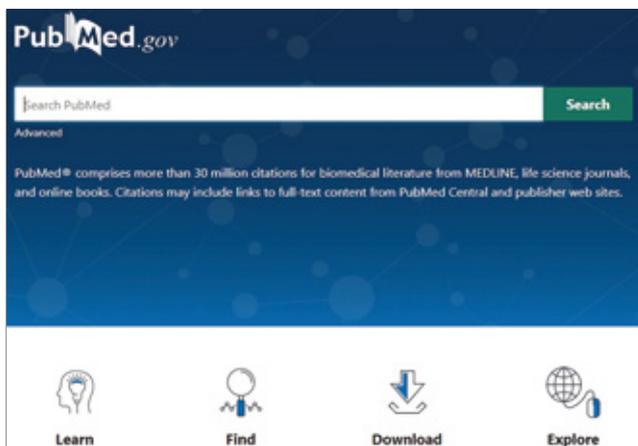
早いもので 2019 年度も残すところあとひと月あまりとなりました。今年度にあった図書館関連の話題をまとめてご紹介します。

■ PubMed リニューアル

(※ 2020.1.14 時点の情報です)

図書館ニュースレター第 112 号 (2019.12) (<http://www.naramed-u.ac.jp/library/newsletter/112.html>) でもご紹介した医学情報界のビッグニュースです。学報にも「検索マスターへの道」というシリーズでたびたび登場していた PubMed が、2019 年 11 月に大幅リニューアルされ公開されました。新しい PubMed は「New PubMed」、今までの PubMed は「Legacy PubMed」と呼ばれています。トップ画面からガラッと変わっているので驚かれた方も多いのではないのでしょうか。

(New PubMed トップ画面 <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/>)



NLM (米国国立医学図書館) の館長が図書館情報学の専門家から看護学と工学の専門家に代わり、よりエンドユーザー向けの構成になりました。Google のように感覚的に素早く求めている情報にたどり着けるようになっていきます。具体的な変更点は以下のとおりです。

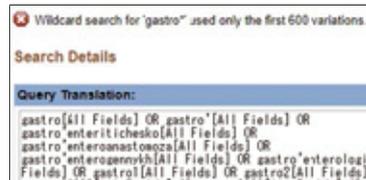
- ・モバイルやタブレット機器からの検索に配慮されたシンプルな画面構成になった。
- ・検索結果の表示順のデフォルト設定が、従来の新着順 (Most recent) から適合度順 (Best match) に変わった。
- ・検索結果の一覧表示において、検索語に関連の深い記述部分を抄録 (Abstract) 中から抜粋して表示するスニペット表示が追加された。

また、基本的な機能で Legacy PubMed と異なる点は以下のとおりです。

- ・前方一致指定「語根 *」(例:「gastro*」) の場合の検索語の語数制限が従来は 600 語だったが、制限がなくなった。その代わりに、前方一致指定で抽出された検索語のバリエーションを検索式の Details (詳細) 表示で確認できなくなった。

(Legacy ①と New ②の検索式の違い。Legacy では「600 語までしか検索されない」というメッセージと検索した 600 語が確認できるが、New ではアスタリスク表示のみで具体的な語形変化のキーワードは出てこない。)

① Legacy PubMed Search Details



② New PubMed Search Details



- ・検索結果の表示順の設定が 7 種類から「Best match」、[Most recent]、[Publication date] の 3 種類に減った。

① Legacy PubMed

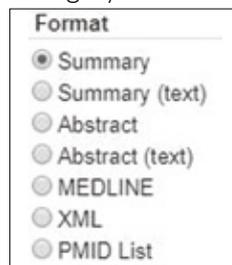


② New PubMed



- ・検索結果の表示形式の設定が 7 種類から「Summary」または「Abstract」の 2 種類に減った。

① Legacy PubMed

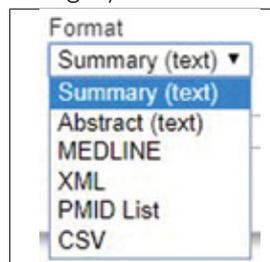


② New PubMed

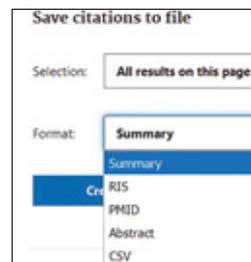


- ・検索結果のダウンロード形式が、「MEDLINE」形式から「RIS」形式に変わったため、EndNote などの文書管理ツールからインポートしやすくなった。

① Legacy PubMed



② New PubMed



New PubMed はリリースされたばかりなので、これからまだまだ変更・改善されるところが出てくると予想されます。PubMed についての新しい情報を確認するには NLM の Technical Bulletin (<https://www.nlm.nih.gov/pubs/techbull/>) をご確認ください。また、不明な点がございましたら、お気軽に図書館までお問い合わせください。

■ 新コーナー設立

2019年5月より、2階閲覧室の中ほどにあった「新着図書（医学科／看護学科）」コーナーを廃止し、新たなコーナーを設けました。旧新着図書（医学）コーナーはDVD・EBOOKコーナー、旧新着図書（看護学）コーナーはコミック・統計コーナーとなりました。これまで医学科あるいは看護学科で推薦していただいた資料は、まず新着図書コーナーに並べ、一定期間経過してから、本来の請求記号（分類番号）に沿った書架に移していました。この流れでは、同一分類の資料が2カ所に分かれてしまうため、「新着コーナーにあった本はどこに行きましたか？」という問い合わせがよくありました。そこで、最初から所定の場所に並べることにより、このような混乱を解消することにしました。新コーナーを設けたことで、今までバラバラに置いていたコミックや統計関連の図書を一か所に見やすく配置できました。また狭い通路に設置していたDVDコーナーを広く明るい書架に移すことができました。



■ 新グッズ作成

2018年4月から月ごとにテーマを変えてカウンターや北側書架でディスプレイする展示企画も始まって1年以上経ちました。これまで動かなかった本も展示されると貸出されるので、皆さんもよくチェックしてくれるのだと実感しています。さて、2019年11月から新しい本立てに入れ替わったのをお気づきでしょうか？これまで、クリアファイル、バッグ、ボールペンなど数々の図書館グッズを作りましたが、2019年はついに図書館用品であるブックスタンドを作りました。本の下に勉強中のないとちゃんがさりげなく座っています。ちょこんと出た耳の部分や、ないとちゃんの横に並べる診断グッズのレイアウトにもこだわりました。展示本を手にとるときは、下の方のないとちゃんにもご注目ください。



■ LAN コーナー PC4 台入れ替え

2018年にカラープリンタをカートリッジ式からエコタンク式に変え、使用中のインク切れがなくなり以前よりは快適にお使いいただけている2階LAN検索PCコーナーに、2019年もさらなる大きな変化がありました。全部で8台置いているPCのうち、前半の4台が新しくなりました。新PCはディスプレイがワイドになり見やすくなっています。まだ使っていないという方はぜひ一度お試しください。2階入って右手すぐにあります。利用の際はカウンターで利用届にご記入をお願いします。



■ 図書館の館内WiFiがキャンパスネットに切り替え(2020年2月予定)

混雑時や時間帯によってつながりが悪くご不便をおかけしていた図書館内のWiFi環境ですが、このたび学内で使われているキャンパスネットに切り替わることになりました。これによりネット環境が安定し、快適にお使いいただけることと期待しております。

■ 電子ブック試読サービス実施中

図書館には紙の本だけでなく電子ブックも多数所蔵しており、試読サービスを実施して利用状況を参考に購入しています。昨年末にはMaruzen eBook Libraryの試読サービスを実施し、利用状況を参考に電子ブックを購入しました。そして現在(2020年1月14日～3月14日)メディカルオンラインの試読サービス実施中です。期間中にたくさんアクセスいただくと、新規購入検討リストの上位に浮上します。興味ある本にどんどんアクセスしてください。

<メディカルオンライン電子ブック>

<http://mol.medicalonline.jp/library/ebooks/>

図書館2019年振り返りいかがでしたでしょうか。皆様にとって便利なサービスや居心地のいい空間を提供するべく、2020年もどんどん変化していきたいと思っています。皆様、2020年もどうぞよろしくお願いいたします。

1. 奈良医大発ベンチャー MBT リンクが製品発売を開始

本学第一号の大学発ベンチャーであるMBTリンク株式会社が、IoTヘルスケアシステム「MBTLink HealthCare サービス」の販売を開始しました。このサービスはウェアラブル端末と環境センサーを活用して、利用者の健康情報と環境情報から医学的知見に基づくアドバイスやアラートを通知するものです。基本パッケージは、腕時計型端末であるMBT SmartWatchや環境センサーから10種類以上の各種データを自動取得し、独自アルゴリズムや「しきい値」判定からなる解析結果をリアルタイムに利用者に通知します。さらに利用者の位置情報や移動軌跡を表示できる「MBTLink MAP」を追加したパックや血圧、体重、体温の測定結果を個別認証データとともにサーバーへ送信するオプションも用意されております。

2. 奈良県企業立地セミナー

11月25日、首都圏企業の奈良県誘致に向けて、東京マリオットホテルで「奈良県企業立地セミナー」が100人を超える参加者を得て開催されました。奈良県への企業誘致のPRに関し、奈良医大から全国に向けて発信を続けるMBTも重要な活動であるとして、荒井知事のプレゼンテーションの中で紹介されました。細井裕司理事長も登壇し、MBTは医学を基礎とする産業創出活動でもあり、100社を超える会員企業とともに少子高齢社会への貢献を目指して活動を行っていること、これまでに成果商品も出てきていることなどを紹介しました。また、特にMBT活動の詳細ヒアリングを希望の企業には相談コーナーを設け対応しました。



荒井知事によるMBT紹介



奈良県企業立地セミナーで講演する細井理事長



奈良県企業立地セミナー荒井知事冒頭挨拶

3. MBTの広報

(1) クロスヘルス EXPO 2019 出展

10月9日～11日、東京ビッグサイト(西ホール)で開催されたクロスヘルス EXPO 2019に奈良医大MBT研究所がブース展示を行うとともに、100名を超える聴衆を前に梅田副所長が「ALSOK北総警が展開する医学とセキュリティを基礎とするまちづくりin栃木」等の題目について講演を行いました。



展示ブースの様相

(2) CEATEC 2019 出展

10月16日、幕張メッセで開催されたCEATEC 2019のセミナーにおいてMBTコンソーシアム会員企業である東洋紡(株)と梅田研究教授が「センサ、IoTを活用した健康見守りシステム」の題目について共同で講演を行いました。



クロスヘルス EXPO 2019で講演する梅田副所長

(3) Japan IT Week 2019、医療IT EXPO 出展

10月23日～25日、幕張メッセで同時開催されたJapan IT Week 2019、医療IT EXPOの2つの展示会で、MBT研究所は講演、ブース展示を行いました。



Japan IT Week 梅田副所長講演



医療IT EXPO ブース展示の様相

(4) クオール(株)におけるデジタルサイネージ

MBTコンソーシアム会員企業であるクオール(株)は全国の直営店約600店舗において、薬局内での時間をより快適に過ごせるよう、デジタルサイネージで「健康情報」の提供を行っております。11月より、このデジタルサイネージにおいて奈良医大の医学知識に基づくMBTの活動や成果の紹介を行っております。



クオール薬局大和高田店のデジタルサイネージ

9.1 ~ 10.6 **奈良医大有志によるソフトボールチーム「NMUファンブルズ」の活躍**

キャプテン 穂西 宏哉

『師長さん!ソフトボールで橿原市民体育大会に参加してみませんか?』そんな1人の臨床工学技士の一言とソフトボール好きの看護師長から始まったチームです。古家病院長に名誉監督として就任して頂きチームが発足してまだ2年目。看護師、臨床工学技士、臨床検査技師、事務といった多職種で構成されたチームでワイワイ体を動かしています。楽しく勝つ!をスローガンに抱え今年は橿原市民体育大会ベスト4入賞。チーム名は【NMUファンブルズ】と言います。野球やソフトボールが好きの方、体を動かすのが好きな方、一緒にやりませんか?



NMU ファンブルズメンバー

9.21 ~ 30 **ミシガン大学医学部 Family Medicine を訪問しました**

平成30年12月に学術科学連携基本合意書を締結したミシガン大学医学部を、西尾健治教授(総合医療学)が訪問しました。

今回のFamily Medicine訪問では、家庭医療における日米の診療の違いや現地の状況、研修スケジュールや雰囲気等、ミシガン大学との連携に向けて実現の可能性を探りました。

現地では、Family Medicineの診察、回診、妊婦の会、研究ミーティング、クリニックを見学し、Family Medicineのザゾヴ(Phillip Zazove)部長をはじめ、フェターズ(Michael Fetters)教授、シュミレーションセンター長であるクック(James Cooke)医師等、多岐の分野にわたる10人以上の医師、スタッフと意見交換を行いました。

今回学んだミシガン大学のシステム及び教育・診療を通して、学生教育、研修医教育、Faculty教育、診療、研究分野における相互交流の実現を目指します。



Family Medicineにて



シュミレーションセンター



Family Medicine ミーティングの様子

10.9 **明日香養護学校旅行引率について**

明日香養護学校より旅行引率に看護師派遣の依頼があり5年目を迎えます。新生児集中治療部及び小児科病棟、脳神経内科病棟所属の看護師が選出されました。この旅行引率前には小学部、中学部、高等部の遠足、卒業旅行前に打ち合わせをして、生徒の状態を聞き医療的援助が必要で、対応できるように情報収集をしての参加となります。

10月9日から11日までの2泊3日で奈良県立明日香養護学校高等部の修学旅行に同行させて頂きました。

晴天にも恵まれ、1日目は新幹線で上京し東京はとバス観光、2日目は東京ディズニーランドを観光しました。はとバス観光では窓に顔を近づけ、普段見慣れない都内の景色に見入っていた生徒さん、ディズニーランドでミッキーに会った時の生徒さんの笑顔が印象的でした。

今回、NICUを卒業した患儿が成長した姿を想像することができ、医療支援を必要としながら学校生活や在宅でどの様に生活をしているのかをこの旅行を通し見せて頂く機会となりました。今回の経験を、今後の在宅指導を行う機会に活かしていきたいと思えます。



10.9 ~ 11 **「クロスヘルス EXPO 2019」に MBT が出展しました**

10月9日~11日の3日間、東京ビッグサイトにて日経BP社主催の「クロスヘルス EXPO 2019」が開催されました。

本学は、10日に「ALSOK北総警が展開する医学とセキュリティを基礎とするまちづくりin栃木」、11日に「今さら聞けない!医学を基礎としたまちづくり(MBT)」と題し、MBT研究所の梅田副所長が講演を行いました。講演では、100名を超える参加者が、梅田先生の講演を熱心に耳を傾けました。

また、「奈良医大MBT研究所」のブース展示場では、本学が取り組むMBT研究の成果である情報分野について積極的にPRしました。



講演を行う梅田 MBT 研究所副所長



ブース展示場の様子

10.9
~11

BioJapan2019に出展しました

パシフィコ横浜において、バイオビジネスにおけるアジア最大級のマッチングイベントである「BioJapan2019」が10月9日～11日の3日間にわたり開催され、本学から麻酔科学の林講師が術中神経モニタリングに関するシーズ「術中排尿、排便機能モニタリングに対応した電極付き尿道カテーテルの開発」を出展しました。

出展ブースでは、ポスターやサンプルを用い、来場者の方々に電極機能を併せ持つカテーテルによる精度の高いモニタリング技術を直接説明し、活発な意見交換を行いました。今後も、産学連携推進センターでは、本学研究シーズと企業等とのマッチングの機会を増やしていきたいと考えています。



技術説明を行う林講師

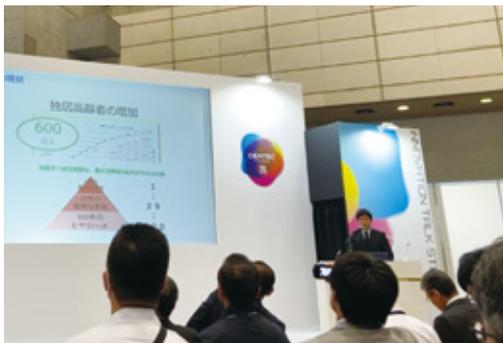
10.15
~18

CEATEC JAPAN2019でMBT講演しました

10月15日～18日の4日間、幕張メッセにて「CEATEC JAPAN2019」が開催されました。「CEATEC JAPAN」はあらゆる産業・業種による「IoT」と「共創」をテーマとしたビジネス創出のための、人と技術・情報が一堂に会する場です。

本学からはMBT研究所の梅田副所長が「センサ、IoTを活用した健康見守りシステム」と題して、現在MBTが取り組んでいるバイタルデータ×環境データによる健康見守りシステムの紹介を行いました。

セミナーでは、100名を超える参加者が、梅田先生の講演を熱心に聴講されていました。



講演を行う梅田副所長

10.19
10.20

令和元年度奈良県立医科大学白檀生祭を開催致しました

白檀生祭実行委員長 鈴木 秀平

本年度は「Be Naraself」をテーマに掲げました。たくさんの来場者と盛り上がりを見ると、この奈良県から全国に向けて、奈良県の魅力、奈良医大の魅力を発信できたのではないかと思います。また、1年間の学祭運営では多くのことを学びました。残りの学生生活において、そして将来医師となるうえで、大きな糧になったと思います。

令和元年度奈良県立医科大学白檀生祭を開催するにあたり、ご協力いただきました近隣の皆様方、お忙しい中、白檀生祭に協賛して下さった病院、企業、店舗各位、様々な形で協力して下さった教室、領域、同窓会、ご指導ご鞭撻下さった諸先生方、また一からアドバイスして下さいました先輩方にはこの場をお借りして白檀生祭実行委員を代表して深く御礼申し上げます。



白檀生祭のステージ

10.23

知財戦略デザイナー派遣事業に採択されました

令和元年度特許庁支援事業「知財戦略デザイナー派遣事業」に本学が採択されました。

本事業は、特許庁の支援事業として今年度から実施されるもので、産学連携及び特定技術分野の専門的な知見を有する知財戦略デザイナーを大学に派遣し、リサーチ・アドミニストレーター（URA）などの研究支援者と共に研究者を訪問し、お互いの知見やノウハウの共有と研究成果を発掘し、将来の展開を踏まえた権利取得を支援するものです。

本学では、ライフサイエンス分野を専門とする知財戦略デザイナーの支援を受けることになり、優れた研究成果の発掘や知的財産権取得のための取組を実施し、将来的には研究段階から権利の活用を見据えた知財戦略の構築を目指します。



知財戦略デザイナー指導の様子

10.24
~26

チェンマイ大学医学部の創立60周年記念式典に参加しました



記念セレモニー
(ワンニマンホテル)

本学と20年以上の交流を続けているタイのチェンマイ大学の招待を受け、令和元年10月24日から26日に、車谷副学長、川上看護教育部長、国際交流センターの福益次長の3名が、訪問しました。

チェンマイ大学は、タイ北部のチェンマイ市に位置し、21学部を有する高い研究及び教育レベルを持つ国立の総合大学です。日本の多くの大学とも交流を行っています。

また、広大なキャンパスは、ドイステープ国立公園ステープ山の麓にあり、周囲は緑が多くとても環境のよいところです。

24日は、記念式典に先立ち、看護学部のクナヴィ クティクル (Wipada Kunaviktikul) 学部長を訪問し、会談を行いました。

最初にチェンマイ大学のプロモーションビデオを視聴後、車谷副学長からこれまでの交流への謝辞とともに、今後の看護学生、職員等の交流促進について、活発な意見交換を行うとともに、記念品の交換を行いました。



25日は、医学部のロイヤルゴールデンジュビリー棟15階を会場として開催された、医学部創立60周年記念セレモニー及び国際フォーラムに参加しました。式典には、8か国22大学の約80名が参加し、盛大に行われ、会場はとても活気がありました。

セレモニーは、チェンマイ大学のナンタチット (Niwes Nantachit) 学長の開会挨拶に始まり、国際フォーラムでは、教育の国際化の取り組み等について、各交流大学のプレゼンターからスピーチが続きました。

記念品交換では、ロジアナピワット (Bannakij Lojanapiwat) 医学部長から両大学の記念交流の印として、本学に記念の飾り

皿をいただくとともに、車谷副学長からは、本学の銘入りオルゴールをチェンマイ大学に贈りました。

その後、バスで会場をワンニマンホテルに移し、創立60周年を祝う



チェンマイ大学医学部長との記念品交換記念セレモニーが続きました。

26日は、医学部のデソムチョク (Athavudh Deesomchok) 副学部長を訪問し、会談を行いました。

この席上には、この3月に、チェンマイ大学から本学へ派遣予定の医学部4年生の学生たち4人も同席してくれました。

席上、車谷副学長からの謝辞とともに、今後の医学生や研究者の交流促進について、学生たちを交えた意見交換を行うとともに、記念品の贈呈を行いました。



チェンマイ大学医学部副学部長と派遣予定の医学生たち

チェンマイ大学と本学との交流事業は、医学科4年生の交換派遣、看護学科4年生の派遣、研究者の派遣、看護部研修生の隔年交換派遣など各分野において取り組んでいます。

今後も本学とチェンマイ大学との交流が、さらに一層発展していくように願っています。

Campus News

10.23 モナッシュ大学からパーハー教授、曾我准教授が来学されました

マレーシアのモナッシュ大学BRIMS (Brain Research Institute Monash University Sunway) から、パーハー (Ishwar Parhar) 教授と曾我朋子准教授が来学されました。BRIMSはモナッシュ大学の神経科学の主要な研究機関であり、加齢に関連する疾患や神経学的疾患に関する研究を行っています。

医学科2年生対象の海外リサーチ・クラークシッププログラムでは、西真弓教授 (第一解剖学講座) のご紹介により、2016年度は小野豪大君、白江基展君 (医学科5年生)、2017年度は河野慎司君、谷澤祐理さん (医学科4年生)、2018年度は野津仁志君 (医学科3年生) をモナッシュ大学で受け入れて頂きました。

学長表敬訪問に続く第一解剖学講座主催の講演会では、パーハー教授が“Altered HPG Axis Increases Risk of Neurodegenerative Diseases During Aging”、曾我准教授が“Consequences of Social Isolation During Early Life on Brain Functions and Behaviours”と題して講演されました。



特別講演会の様子



左より野津君、西教授、パーハー教授、細井理事長・学長、曾我准教授

10.23 ~ 25 Japan IT Week 秋で講演しました

幕張メッセにおいて、最新のITテクノロジーが一堂に会する「Japan IT Week 秋」が開催されました。MBT研究所が得意とする健康状態を可視化するIoTヘルスケアサービスの展示について、本学MBT研究所の梅田智副所長が商品説明し、そのシステム概要や今後の展開としての「MBT Linkヘルスケアサービス」について講演しました。

また、同時に開催された医療と介護の総合展「医療IT EXPO」においても、パネル展示を行い、商品説明、MBT Linkシステムについて講演し、多くの方々にMBT (医学を基礎とするまちづくり) を知っていただける良い機会となりました。



梅田副所長講演の様子

11.1 国際交流グッズの支給について

このたび、国際交流グッズとして、これまでのマグカップとトートバッグに加えて、メモ帳とクリップクロックを新たに作製しました。国際交流にご活用ください。

支給を希望される所属は国際交流支給要領に基づき、国際交流センターまで支給申請書の提出をお願いします。申請様式、配付基準は学内ホームページに掲載しています (国際交流センター国際交流グッズ)。



メモ帳



クリップクロック



マグカップ



トートバッグ

11.1 MBT 連携企業の薬局全国 600 店で MBT 情報発信を行っています

MBTの全国情報発信の一つの広報戦略として、MBT連携企業であるクオール株式会社の薬局内において、デジタルサイネージによる「MBT健康情報」の提供を行っています。

こちらは、全国600店舗においてMBTに関する様々な情報を発信しておりますのでお近くに行かれた方はぜひご覧ください。



クオール薬局でのデジタルサイネージ

11.5 MBTの広報戦略について

MBT 研究所運営会議を、学長室会議室で開催しました。

首都圏でのPRやデジタルサイネージ広告、大学発ベンチャー企業であるMBTリンク (株) のプロモーションビデオ、MBTの研究成果でもある「睡眠頭位調節マットレス」の紹介など、全国展開する広報戦略の方法など論議を行いました。また、全国各地の実証実験や展示会、セミナーなどのMBT広報活動を通じてMBTの知名度アップを図り、MBT広報を積極的に推進することを会議の中で確認しました。



学長室会議室での運営会議の様子

11.4

着物でジャズ今井町 2019 に MBT 研究所を出展しました

着物でジャズ今井町は、医療と音楽そして着物を組み合わせたイベントとして、継続的に開催されています。今回、MBT 研究所は今井町の旧米谷家住宅・今井景観支援センターの「医療とアート展示会」会場に、歩行計測体験ができる「歩く力」の見える化ブースを出展しました。「歩く力」の見える化は、「運動の習慣化」や「運動機能の改善・向上」に繋げることを目的とした MBT 研究所の取り組みの 1 つです。

ブースでは、腰にセンサーを装着して 6～10 メートル歩くだけで、歩行速度や歩幅、バランス等の歩行状態が「見える化」され、簡単に歩き方の癖や傾向を知ることができるとあって、様々な年代の方の参加がありました。また、歩行計測体験後の MBT 研究所 遊佐講師、馬場招聘講師による結果の解説とアドバイスも好評で、体験者からは「歩きやすくなった」という感想が多く聞かれました。今後も、イベント等を通じて、MBT 研究所の取り組みを分かりやすく発信していきたいと思っています。



歩行測定中の様子



計測結果の説明の様子

11.5
11.7

訪問看護同行実習を終えて

看護部 認定看護師 鈴木 千明

訪問看護同行実習では、がんや脊椎疾患、自己免疫疾患の方々の訪問に同行させて頂きました。皮膚・排泄ケア認定看護師として褥瘡ケアにおける局所処置やポジショニングについて一緒に検討する機会がありました。在宅での生活環境は病院とは違って様々で、物品もマンパワーも限られており困難さを感じました。在宅療養に向けた支援では、患者の背景や環境などその人の個別性を踏まえたケアを提案することの重要性を再認識しました。

11.5
11.6

訪問看護同行実習を終えて

救命救急センター ICU 看護指導主査 榎谷 美智子

私は訪問看護同行実習において様々な学びを得た。看護の基本は場所が違っても同じである。患者・家族を理解し、他職種と連携しながら苦痛緩和に努める。今回の実習を退院支援に活かせるよう意識を高く持ち、在宅が可能か否かを判断する事が大切である。私は看護が提供できる事の感謝の気持ちを忘れず、患者の取り巻く環境や必要な社会資源は何か、その為のサポートをどのようにするかなどを考慮し今後のケアに努めていきたい。

11.6

2019 年度 第 3 回 V-iCliniX 講座 運営委員会を開催しました

昨年 2 月に中谷医工計測技術振興財団の長期大型研究助成を活用して設置した寄附講座「V-iCliniX 講座（生体 5 次元インフォマティクス国際統合ハブ）」の 3 回目となる運営委員会を 11 月 6 日に開催しました。まずは、佐藤教授から研究成果等を含む進捗状況及び今後の研究計画についての説明がありました。その後、講座の管理や運営に関する報告を受けて、今後の課題や計画について検討されました。委員会では本講座が順調かつ適切に運営されていることが確認されました。



委員会の様子

11.10
～24

チェンマイ大学研修での学び

看護部情報管理 師長 高木 美由紀

11 月 10 日～24 日の 2 週間、B 棟 8 階の森恵さんとチェンマイ大学に研修に行かせていただいた。チェンマイ大学附属病院では看護の質保証部や、看護部として情報管理システムに関する独立した部門があり、人材育成や看護師の能力に応じた人員配置や人事異動・管理、情報分析が行われていた。そのためシステムを SE の専門的な知識を持った看護師が作成している。実際、現場では走り回っている医療者はいない。ナースコールの音もほとんど聞かなかった。看護師免許が 5 年更新制ということもあり、看護師の向上心が高く、公用語はタイ語だが朝のカンファレンスを英語で行っている病棟もあった。なにより一番感銘を受けたのはタイ人の優しさである。仏教の教えのせいだろうか、私たちへの気遣いはもちろん患者・家族への手厚い制度や対応には驚くことがたくさんあった。看護の原点を見たような気がする。様々な背景が日本とは違うのでそのまま当てはまることはできないが見習うことが多くあり、とても刺激を受けた研修であった。



最終日に病院長から修了証書をいただきました

11.21 第17回 国際血液代替物学会 (XVII-ISBS-2019) を開催しました

化学教室 教授 酒井 宏水

本学後援の国際学会 (The 17th International Symposium on Blood Substitutes & Oxygen Therapeutics) を、11月21日 (木) ~ 23日 (土) に開催しました。紅葉真っ盛りの奈良公園、奈良春日野国際フォーラムにて、Opening では細井裕司学長にもご挨拶をいただき、18か国より合計138件の演題発表を集めました。赤血球や血小板などの代替物に関する研究発表が主であり、米国FDA、UCLA 麻酔科、中国輸血研究所ほか、国内からは京大の江藤先生、日赤の佐竹先生の Plenary Lecture などがありました。さらに本学からは、嶋緑倫先生からもご講演いただきました。また吉岡章先生、松本雅則先生には座長を務めていただきました。当教室で進めている人工赤血球の研究開発も十分にアピールでき、2年半をかけて準備してきましたイベントを成功裏に終えることができました。



能楽ホールでの記念写真

11.23 西日本医学生学術フォーラム 2019 で口演発表しました

医学科3年 森川 成孝

11月23日に大阪府吹田市で開催された西日本医学生学術フォーラム2019 (大阪大学主催) において、「ヒト神経系オルガノイドを用いた病態解析」という演題で口演発表を行ってまいりました。本フォーラムは西日本の医学生が日ごろの研究成果を発表するもので、さまざまな研究内容の提示、意見交換が行われました。学外で初めて研究内容の発表をさせていただく良い機会であったのみならず、同じ年代で研究を行っている仲間から大いに刺激を受けることができました。ご指導いただいた森英一朗先生 (未来基礎医学) をはじめとする先生方にこの場をお借りし深く御礼申し上げます。これを糧に今後も研究に精進してまいりたいと思います。



学報編集委員会からのお知らせ

✎ 寄稿記事募集案内

「学報」では、奈良県立医科大学や附属病院に関すること、お知らせ等を掲載するため、これらに関連する記事を広く募集しております。

掲載を希望する記事がある場合は内線2206までお問い合わせください。

なお「学報」は年4回発行しており、本学教職員・学生のみならず本学同窓会会員や関連大学・病院等にも配布しております。



11.25 組換えDNA実験安全委員会 講演会の開催

組換えDNA実験安全委員会講演会を開催しました。

鳥取大学研究推進機構研究戦略室教授で同医学部附属病院遺伝子診療科副科長の難波栄二先生をお招きし「遺伝子組換え実験に関する教育訓練」と題して、遺伝子組換え実験を実施する際の拡散防止の考え方や方法等についてご講演いただきました。また、ゲノム編集生物の取扱い方針等についてもご説明いただき、遺伝子組換え実験を安全に実施することの重要性をお話しいただきました。



難波先生



講演会の様子

11.25 奈良県企業立地セミナーにMBTが参画しました

東京マリオットホテルにおいて開催された、奈良県企業立地セミナーにMBT 研究所が参画し、細井裕司理事長・学長の講演と出展を行いました。

今回は、奈良県の企業誘致戦略として、既に全国にて展開し実績のあるMBTが奈良県への企業進出の魅力を伝えるものとなりました。当日は、多くの方の来場があり開始時間を早めての展示となりました。ブースでは、MBT研究所の取り組みや成果、大学発ベンチャーのMBTリンク（株）の展示を行い、MBTに関心を示す企業でいっぱいとなりました。

また、企業との共同研究の成果の商品としてMBT認定第1号商品である「睡眠頭位調節マットレス」の実物を展示も行いました。販売開始の新しい商品ということもあり、商品の特性である「耳

石に優しいマットレス」とはどのようなものかという直に触っての質問以外に、MBTとの共同研究を視野に興味深く商品の特性についての質問も多くありました。

細井裕司理事長・学長も自ら先頭に立ってMBTをアピールしました。なお、個別の企業からの技術相談の場として、「MBT相談コーナー」も開設しました。

セミナーでは、奈良県知事の挨拶から始まり、県内立地企業から県内での立地についての紹介や今後の展望の後、本学細井理事長・学長が「MBT・医学を基礎とするまちづくり」と題し講演を行いました。MBTの今後の展開も期待出来るセミナーとなりました。

細井理事長・学長に質問をする企業の方もおられ、本学の取り組みを発信する良い機会となり、盛況のうちに終了しました。



ブース展示の様子



講演を行う細井裕司理事長・学長



細井裕司理事長・学長と荒井正吾奈良県知事



MBT相談コーナー



MBTをPRする細井理事長・学長



セミナーの様子

11.27 医学部合同情報交換会に参加しました

大学における知的財産管理及び活用を中心とした産学連携活動全般に係る問題点についての情報交換の場として、本学では、医学部合同情報交換会に参画し積極的に課題解決を図っています。

今年度は東京の国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)での開催となり、全国の単科医科大学の産学担当が参加し、情報交換を行いました。各大学の産学連携に係る動向や抱えている課題の共有、またスタンフォード大学で知財保護活動をされている池野文昭先生との意見交換など今後の本学の知的財産の取扱いについて大変参考な場となっています。



各大学による活発な意見交換の様子

11.27 ~ 29 新価値創造展2019で講演しました

「新価値創造展2019」が11月27日~29日、東京ビッグサイトにおいて開催されました。新価値創造展は新しいアイデアや技術を求める大企業・中堅企業等がこれから向き合う事業企画から研究開発、マーケティングについて、新製品やサービスの取り扱いの方向性の提示をする展示会です。

本学からはMBT研究所の梅田副所長が、東京大学の石井直方教授とMBT連携企業と、「ビッグデータをフル活用したプラットフォームで健康管理」と題して、対談を行いました。100名を超える聴講者が熱心に対談を聞いておられました。今後も様々な展示会等においてMBTの周知を図っていきます。



対談の進行役を務める梅田副所長

Campus News

11.28

令和元年度総合防災訓練を実施しました

11月28日16時05分より、地震の発生及びこれに伴う化学準備室からの出火という想定で、総合防災訓練を実施しました。

今回の訓練は、「地震が発生しました」というアナウンスで始まり、教養教育棟及び基礎医学棟で授業を受けていた学生150名も訓練に参加し、身を守る行動の後、担当教員の「避難開始」の号令で順に避難を開始しました。

学生の避難誘導には、自衛消防・防災隊が駆け付け、逃げ遅れ、負傷者の発生想定では、同隊が救出・救護を行いました。

また、化学準備室における出火の想定訓練では、教員と自衛消防・防災隊が連携した消火活動を実施しました。



自衛消防・防災隊集合



学生による1分間の身を守る行動



担当教員・学生、避難場所集合



担当教員による初期消火

12.3

医学部医学科「Student Doctor 認定証・白衣授与式」を行いました

12月3日に、医学科4年生110名のStudent Doctor認定証・白衣授与式が執り行われました。

細井学長、古家病院長、國分同窓会長から激励のお言葉をいただき、その後、代表学生4名に、学長から「Student Doctor認定証」が手渡されました。続いて、学長・医学部長・病院長・同窓会長からそれぞれ白衣が授与され、白衣授与後、学生を代表し、津島 祐斗さんが、医師となる自覚と責任を臨床実習で培っていくことを宣誓しました。



2019年度Student Doctor認定証・白衣授与式

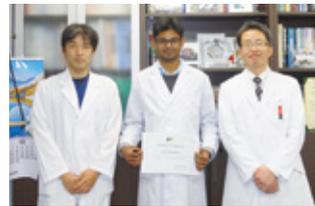
12.2
~13

オーストラリアからの実習生を受け入れました

12月2日から12月13日の日程で、クイーンズランド大学、博士課程1年生の、ナダン・ラジャパクサ (Nadun Rajapaksa) さんが来日しました。今回の実習は、脳神経内科で行われ、患者の診察や検査の見学、講義などに参加しました。「2週間という短い期間でしたが、医局の方々や学生たちとも交流できて、とても有意義な時間を過ごすことができました。」という感想をいただきました。

奈良医大では、海外からの学生の実習受入れを積極的に行っています。ここ奈良医大での実習や、スタッフ・学生との交流が素晴らしい体験となるようサポートしていきたいと考えています。

*海外からの研究者、学生の滞在の感想は、国際交流センターの学内ホームページ (VOICE) に掲載しています。



杉江教授 (右) と桐山講師 (左) と



医局でのプレゼンの様子

12.6

災害医療図上訓練を開催しました

12月6日17時30分より、BC棟2階職員食堂にて、災害医療図上訓練を実施しました。

この訓練は、大規模地震を想定した図上型シミュレーション訓練です。災害医療統括部 (本学災害対策本部の下部組織として設置され、災害発生時の重症患者の受け入れや医療救護活動を行う) の立ち上げの段階から訓練を開始し、情報収集、被害状況の集計、統括事務局への報告、関係機関との調整等、実災害を想定した状況を書面・電話・無線機により付与し、その対応について、災害医療統括部内各班 (入院班、外来班、総務班、統括事務局) で検討しました。長時間の訓練にもかかわらず、院内から約80名が参加し、白熱した訓練となりました。

当院は基幹災害拠点病院として、災害から県民を守り、地域の安心を確保する必要があります。今回の訓練を受けて浮かび上がった課題を確認し、災害医療体制の見直しや、病院BCP (業務継続計画) マニュアル、災害医療対策基本マニュアルの検証、見直し等の災害医療対策に今後も取り組んで参りますので、引き続き皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。



西尾教授 総括・講評



対応を検討する様子 (外来班)

12.7

奈良マラソン会場で肝炎検査受診率向上活動を実施しました

12月7日、8日に奈良マラソンのイベント会場にて、奈良県の肝炎検査受診率向上を目指して、本学消化器内科学医局員が奈良県肝炎医療コーディネーターと共に啓発活動を行いました。来場者に肝炎啓発のチラシ配布と無料肝炎検査を実施しました。12月8日には「なるほど肝炎」と題して奈良市観光特別大使の俳優加藤雅也氏と吉治仁志教授とのスペシャルトークが開催されました。



奈良マラソン会場でのスペシャルトークの様子

12.16

大阪万博にMBTを！

MBT 研究所タカトリラボ分室で、MBT 研究所運営会議を開催しました。

今回は、2025年大阪万博への展開を中心に議論を行いました。MBTは、これまでに、近未来社会の遠隔医療実現に向けた様々な実証実験を行っています。この実績を活かして、万博でもMBTの展開を図りたいと考えます。

その他、MBT サテライトや、本学MBT研究所のホームページ等について議論を行いました。MBTはますます活動の幅を広げています。興味のある方の参加をお待ちしております。



タカトリラボ分室での議論の様子

12.9

第4回LLPS研究会・ASUKA若手交流会2019を開催しました

12月9日に、本学において「第4回LLPS研究会・ASUKA若手交流会2019」(世話人代表：森英一郎(奈良県立医科大学)、吉澤拓也(立命館大学))を開催しました。2019年は、白木賢太郎先生(筑波大学)によってまとめられた細胞内で起こっている液-液相分離をまとめた著書「相分離生物学」が出版され、相分離生物学が非常に身近なものになりました。研究会では、2012年のCell論文以降、相分離に関する新たな知見を次々と報告している加藤 昌人 先生(米国テキサス大学)をお招きし、白木先生と加藤先生との討論を通じて、今後の相分

離生物学について議論を深めました。また、佐藤衛先生(横浜市立大学)・杉山正明先生(京都大学)・齋尾智英先生(北海道大学)の3名をお招きし、形を持たずに機能する相分離した液滴の状態をどのように評価し理解するかについて、御講演頂きました。全体としては、合計36演題と100名以上の参加者で、白熱した議論が繰り広げられました。演題内容も、生物学的現象から化学・物理学的な解析手法の開発に至るまで、多岐に渡っておりました。



集合写真

12.16 KAMPO 勉強会を開催しました

研修医向けの「漢方レッスンことはじめ」と題して、漢方薬についての勉強会を開催しました。

本学臨床研修センターの赤井センター長が司会の進行で、今回のテーマである漢方薬の「大建中湯（ダイケンチュウトウ）」、「六君子湯（リックンシトウ）」について講義を行いました。一般的な効能、用法、用量等についての説明の後、漢方専門医・指導医である本学大和漢方医学薬学センターの三谷先生から詳しい説明がありました。海外での漢方薬の使用手法や、ご自身の経験談等、また漢方は「過去からの経験値を学ぶことが何より大事」、「全ての知見を論文に残す事が大事」であるとお話をいただきました。参加者は三谷先生のお話を熱心に聞いておられました。

奈良は漢方と深い関わりがあります、漢方のメッカとして本学から漢方を積極的に発信していきたいと思えます。



講義を行う三谷先生

12.17 ~ 18 イノベーションストリーム KANSAIに出展しました

「イノベーションストリームKANSAI」が12月17日、18日、グランフロント大阪において開催されました。イノベーションストリームKANSAIはうめきた2期開発のコンセプトを踏まえて、関西の大学等による最先端の技術やサービスの研究成果を発信するとともに、うめきた2期開発への期待や新産業創出拠点化へのポイントとなるデータ利活用などに関する幅広いシンポジウムを行っています。

本学からは疫学・予防医学佐伯教授の「温度・光環境と生体リズム」、麻酔科学川口教授の「集中治療室の快適環境構築」、呼吸器内科学山内准教授の「ウェアラブルセンサシステム」の研究テーマで参画しているけいはんなリサーチコンプレックスが、異分野融合研究の成果紹介を行いました。

オープンイノベーション活性化のために今後も様々な展示会等において本学の研究シーズの周知を図っていきます。



けいはんなリサーチコンプレックス 異分野融合研究の紹介

12.19 健康長寿大規模コホート研究 進捗状況報告会の開催

本学では、将来像の重点研究2016推進計画に定める重点研究課題の1つとして、健康長寿大規模コホート研究を推進し、地域住民の健康意識高揚等を目的とした地域貢献を図っています。このたび、以下の2研究課題について進捗状況報告会を開催しました。

「手術後機能障害の発生とその関連因子についてのコホート研究」
麻酔科学 教授 川口 昌彦

「温度・光曝露が健康に及ぼす影響に関する前向きコホート研究」
疫学・予防医学 教授 佐伯 圭吾



麻酔科学 川口教授



疫学・予防医学 佐伯教授

12.19 特別共同研究助成事業 研究成果報告会の開催

本学では、複数の講座・領域等で取り組む横断的共同研究活動を助成し、連携研究活動の一層の活性化を図り、本学の将来像に定めた横断的・共同研究を推進する事業を実施しています。

このたび、助成期間が終了した研究課題（H29-H30）について研究成果報告会を開催しました。

なお、この助成事業は昨年度より「特別共同研究助成事業」から「横断的共同研究助成事業」と名称を変更しています。

「脳腸相関からみた神経性無食欲症のサイクバイオティクス同定と新規治療法の開発」

微生物感染症学 教授 矢野 寿一

「ヒト神経細胞におけるC9orf72関連 神経変性疾患の病態解明」
脳神経内科学 教授 杉江 和馬

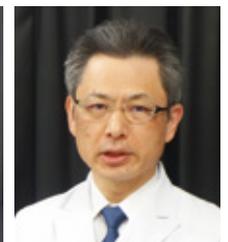
「難治性消化器癌における新たな早期診断および集学的治療法の開発」
消化器・総合外科学 教授 庄 雅之



微生物感染症学
矢野教授



脳神経内科学
杉江教授



消化器・総合外科学
庄教授

12.26 第3回 奈良臨床漢方医学セミナー（精神科領域編）を開催しました

今回のセミナーは、一般演題と特別講演の2部構成で、中村祐先生（香川大学医学部 精神神経医学講座・教授）、高田涼平先生（本学精神医学講座・医員）よりご講演をいただきました。

一般演題では、高田先生より「不眠症に対する漢方治療」というテーマで、抑肝散（ヨクカンサン）という漢方薬による治療が臨床試験においても安全で高い効果が認められたとの報告が行われました。

特別講演では、「精神科領域で用いられる漢方薬」と題し、中村教授よりご講演いただき、高齢者の睡眠障害への対応だけで

なく、ご専門である認知症と睡眠障害の関係、治療方法、そして精神科領域で広く有用な漢方薬の取り入れ方についても幅広く触られました。また、抑肝散の作用メカニズムについての分かり易い説明や「抑肝散は緑茶に非常に良く合う（溶かして服用する）」という“香川式”と呼ばれるおすすめの服用法についての紹介もありました。参加者の方々は熱心にメモを取り、中村教授の実践的かつユーモアあふれる講義に聞き入っていました。

次回は、消化器内科領域編を予定しています。



精神医学講座 高田医員



香川大学 中村教授



会場の様子

12.26 めいぐるみ病院を通しての地域の子どもの交流

看護学科3年 嶋中 虹歌

めいぐるみ病院とは、めいぐるみを患者さんにみたくて、子どもたちにはそのお父さん、お母さんとなってもらい、そして私達学生が医師、看護師となり、お医者さんごっこをする取り組みです。

目的は、子どもたちに病院に対しての恐怖心を少しでも無くしてもらうこと、そして自分自身の健康について興味を持ってもらうことです。園児は、診察の際少し緊張した様子でしたが、めいぐるみに注射をしたり、マスクをつけたりしていると

笑顔が増えてきました。めいぐるみに注射をしている様子を見て、「私も僕も注射がんばる」と言ってもらうことができました。また、子ども用の白衣と本物の聴診器を用意して、子どもたち同士で心臓の音を聴きあったり、白衣を着て写真を撮ったりしました。「ドクンドクン聴こえる！」とみんな目を輝かせていました。写真を撮るときも、みんな素敵な笑顔を見せてくれました。楽しそうな子どもたちの姿をみて私たちも笑顔がこぼれました。今後もこの活動に取り組んでいきたいと思います。



なかよし保育園で開催



聴診器体験

Winner Report

5.25

日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定 (I & A) 制度審議会の視察員として選出されました

輸血部 看護指導主査 池田 桂子

この度、日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定 (I & A) 制度審議会の視察員として選出されました。I&Aとは inspection (点検) して accreditation (認証) するシステムです。輸血用血液や分画製剤の適正使用の徹底と、より安全な輸血管理を目指しています。血液製剤は善意の無償提供のもとで成り立っています。保管や取り扱い不備による『廃棄のゼロ』、そして提供者の思いを託し患者さんへより安全な輸血療法を提供できる一助となれば幸いです。

9.18
~ 21

The 49th European Society for Dermatological Research (ESDR) Annual Meeting でポスター賞を受賞しました

皮膚科学 講師 宮川 史

9月18日~21日にフランス、ボルドーで開催された第49回欧州研究皮膚科学会議において、研究演題「Monocyte-derived dendritic cells mediate autoimmunity in murine model of systemic lupus erythematosus」のポスター発表を行い、ESDR 2019 Poster Prize に選ばれました。本研究では、全身性エリテマトーデス (SLE) モデルマウスを用いて、炎症性単球由来の樹状細胞から産生されるI型インターフェロンや炎症性サイトカインがSLEの発症に関与していることを示しました。国際学会での受賞は予想外で大変光栄に感じています。浅田教授を始め、研究に協力いただいた教室職員、共同研究者の皆様深く感謝申し上げます。

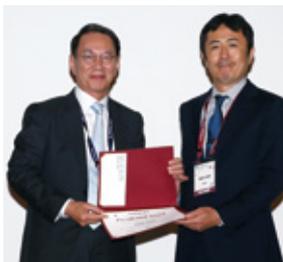


9.7

The 7th Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association で Presidential Award を受賞しました

消化器・総合外科学 学内講師 野見 武男

9月7日にソウルで開催された The 7th Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association で Presidential Award を受賞しました。全 1600 演題の中から 3 演題が受賞となりました。受賞演題名は「Multicenter propensity score based analysis of laparoscopic versus open liver resection for hepatocellular carcinoma」であり、高齢者肝細胞癌に対して腹腔鏡下肝切除の周術期成績が開腹肝切除に比較して良好であったという趣旨です。本研究は、関西 9 大学の多施設共同研究で、主研究者として発表を行いました。本受賞にあたり、御指導賜りました庄教授に深く感謝申し上げます。

10.4
10.5

第44回リザーバー研究会 最優秀演題賞

総合画像診断センター 助教 佐藤 健司

この度、京都で開催された第44回リザーバー研究会におきまして最優秀演題賞を受賞致しました。演題名は、「肝癌に対する経動脈的治療におけるマイクロカテーテル挿入可能ポートの開発」です。本演題は、肝癌に対する選択的肝動脈化学塞栓療法を外来ベースで施行可能にするデバイスの開発に関する基礎研究であります。現在、本学のMBTのプロジェクトとして産学連携でデバイスの市販化を進めております。

今回の受賞にあたりご指導いただきました田中利洋准教授をはじめ、ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。



9.20

第71回消化器画像診断研究会において優秀ポスター賞を受賞しました

放射線・核医学科 医員 南口 貴世介

この度、9月20日から21日に開催されました第71回消化器画像診断研究会において優秀ポスター賞を受賞させて頂きました。演題名は「著しい早期濃染を呈し、半年間で増大傾向を示した肝腫瘍の1例」です。本研究では、消化器内科・消化器外科・放射線科・病理医が、肝胆膵を中心とした画像診断と病理を通じて、適切な治療法について検討しています。受賞に際しまして、ご指導頂きました丸上先生に心より感謝申し上げます。



10.10
~12 **第29回日本耳科学会総会で初めての
耳科学会優秀演題賞を受賞しました**

耳鼻咽喉・頭頸部外科学 助教 塩崎 智之

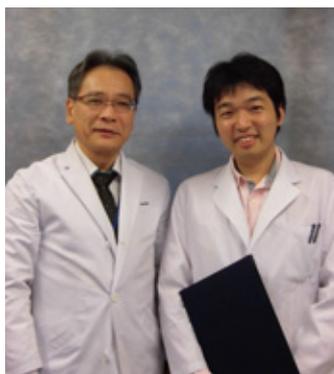
このたび、10月10日～12日に山形で開催された第29回日本耳科学会総会・学術講演会にて初めての耳科学会賞の優秀演題賞を受賞しました。今回は若手研究者の研究の活性化を目的に初めての耳科学会というセッションが生まれ60演題の発表がありました。受賞演題は「内リンパ嚢開放術直後のめまい回復期における自覚的視性垂直位検査所見の推移」です。本研究にあたりご指導頂いた北原紘教授及び耳鼻咽喉・頭頸部外科教室の先生方に深く感謝いたします。今回の受賞はこれから頑張って研究を行ってくださいというメッセージだと感じました。今後もさらに人に求められる意義のある研究が行えるように精進していききたいと思います。



10.18
~20 **第55回日本医学放射線学会秋季臨床大会
イメージインタープリテーション最優秀賞**

総合画像診断センター 助教 山内 哲司

10月18日～20日に開催された第55回日本医学放射線学会秋季臨床大会でのイメージインタープリテーションで、第一位・最優秀賞を受賞させていただきました。これは実症例の臨床情報および画像からその診断の正確さを競うコンテストのようなもので、難症例が並び、経験年数を問わず毎年たくさんの放射線科医が参加します。



今後も画像診断を通して医療や、学生・研修医などの教育に貢献できるよう、日々取り組んでいきたいと考えます。

10.18
~20 **日本医学放射線学会秋季臨床大会において
優秀ポスター賞(ブロンズ)を受賞しました**

放射線・核医学科 大学院生 立元 将太

10月18日～20日、名古屋市で開催されました日本医学放射線学会秋季臨床大会において優秀ポスター賞(ブロンズ)を受賞しました。演題「MRIによる歯状線の評価」は、MRIを用いて下部直腸癌における歯状線浸潤の有無を評価できる可能性を示した研究です。この場をお借りして吉川公彦教授ならびに伊藤高広講師、中央内視鏡部小山文一病院教授、病理診断学講座森田剛平助教のご指導に感謝申し上げます。今後も日々の研究に邁進してまいります。



10.19
10.20 **第29回日本救急放射線研究会
優秀演題賞**

総合画像診断センター 助教 山内 哲司

10月19日～20日に名古屋で行われた、第29回日本救急放射線研究会で発表させていただいた演題「激しい前胸部痛で発症し、その後自然退縮を認めた胸腺腫の一例」に対し、優秀演題賞を受賞しました。今大会からこの賞が創設され、内容を評価いただいたようです。受賞にあたりいつもご指導いただいている先生方に感謝申し上げます。



10.23
~25 **第78回日本めまい平衡医学会総会で
優秀ポスター賞を受賞しました**

耳鼻咽喉・頭頸部外科学 医員 松村 八千代

10月23日～25日にかけて富山市で開催されました第78回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会において優秀ポスター賞を受賞いたしました。演題は「高齢期めまい症例におけるフレイルと平衡機能



の関係についての検討」です。超高齢化が進む我が国において、高齢者が要介護状態に至る重要なファクターとして注目されているフレイルと体平衡機能との関係について研究しました。本研究にあたり、御指導いただきました山中敏彰病院教授をはじめ、教室員の諸先生方に深謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後もめまい診療に役立つ研究を続けていけるよう精進してまいりたいと思います。

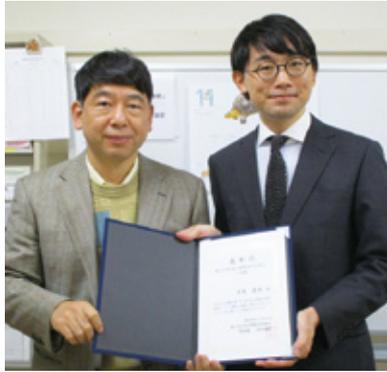
Winner Report

10.23

第78回日本公衆衛生学会総会において口演賞を受賞しました

公衆衛生学 大学院博士課程 吉原 真吾

10月23日～25日まで高知市で開催された第78回日本公衆衛生学会総会において口演賞を受賞しました。受賞演題は『肝臓癌に対する経動脈的化学塞栓術における予防的抗菌薬と肝膿瘍の関連』です。DPC研究班のデータベースを用いて、経動脈的化学塞栓術(TACE)後の肝膿瘍が抗菌薬投与で減少する可能性があることを示しました。肝膿瘍のような発症率が低く臨床研究が難しい疾患において、大規模データベースを用いて評価する有用性を示すことができました。これを励みに今後も精進していく所存です。解析するにあたり、今村教授をはじめ公衆衛生学講座の諸先生方、学外の多くの先生方のご指導とご支援をいただきました。厚く御礼申し上げます。



11.7

第48回かなえ医薬振興財団研究助成金をいただきました

精神医学 助教 山室 和彦

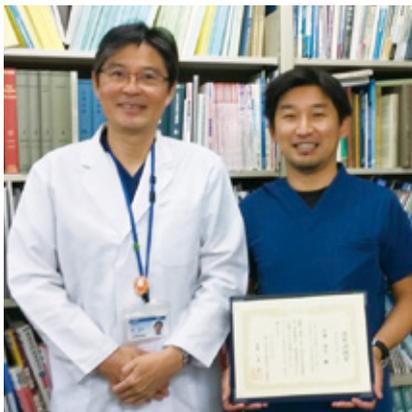
この度、「注意欠如多動症と自閉スペクトラム症併存の神経基盤の解明と治療効果予測を目指して」を研究テーマとして、第48回かなえ医薬振興財団助成金を頂きました。今回採用していただいたテーマは、事象関連電位や頭部MRI検査を用いて、発達障害の患児の診断および治療の効果判定などを同定するというものです。事務局長が精神科医局まで訪問して頂き、奈良医大として12年ぶりであること、また神経領域は約16倍の競争率で、その中で一番いい評価を頂きました。このように評価して頂いたのも、岸本教授を中心に諸先輩方々が実臨床のみならず、研究にも力をいれ業績を蓄積してきたからこそであると思います。この場をお借りして深く御礼申し上げます。今後も益々、研究に精進したいと思います。

10.25
10.26

第39回日本川崎病学会・学術集会で優秀演題賞を受賞しました

小児科学 診療助教 辻井 信之

10月25日、26日に東京で開催された第39回日本川崎病学会・学術集会におきまして、優秀演題賞を受賞しました。受賞演題は「流血下血栓可視装置(T-TAS®)を用いた川崎病患者における血小板血栓形成の評価」です。現在、川崎病急性期にアスピリンが使用されていますが、血小板血栓の性質・抗血小板薬の有効性に関して十分なエビデンスは示されていません。いまだに原因不明の川崎病の治療エビデンスに繋がればと立ち上げた臨床研究です。本研究に携わっていただいた医局・他病院の先生方の協力のお陰であり、厚く御礼申し上げます。本受賞を励みに、臨床現場に貢献できるよう一層臨床・研究に邁進していきたいと思っております。

11.7
~9

第67回日本化学療法学会西日本支部総会で支部奨励賞を受賞しました

医学科6年生(微生物感染症学) 水野 友貴

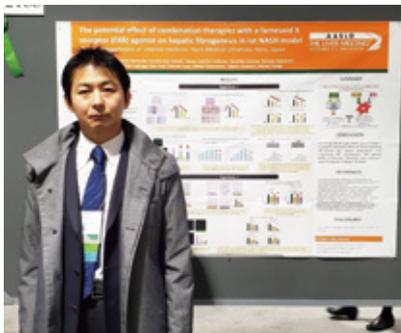
この度、第67回日本化学療法学会西日本支部総会で活性化委員会推薦演題に選出され支部奨励賞(基礎部門)を、去年に引き続き今年も受賞することができました。演題名は「本邦で分離されたカルバペネマーゼ産生肺炎桿菌が保有する病原遺伝子の解析」です。今回の受賞に際しまして、矢野寿一先生をはじめ、日々ご指導をいただいている微生物感染症学講座の先生方に厚く御礼申し上げます。



11.8 アメリカ肝臓学会 (AASLD) The Liver Meeting
2019において優秀ポスター賞を受賞しました

消化器内科 助教 下里 直隆

11月8日～12日までボストンで開催されたアメリカ肝臓学会 (AASLD) The Liver Meeting 2019のポスター発表セッションにおきまして、優秀ポスター賞を受賞しました。



演題は「The potential effect of combination therapies with a farnesoid X receptor (FXR) agonist on hepatic fibrogenesis in rat NASH model」で、FXRアゴニストであるオベチコール酸を軸に、2型糖尿病治療薬であるDPP4阻害薬と降圧薬として広く用いられているAT-II阻害薬 (ARB) を併用することで、非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) に対する肝線維化抑制効果を示した研究発表です。今回の発表に際しご指導を頂きました吉治仁志教授ならびに多くの先生方に深く御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

11.12 The 26th Asia & Oceania Federation of
Obstetrics & Gynaecology (AFOG) で Yuji
Murata Endowment awardを受賞しました

耳鼻咽喉・頭頸部外科 診療助教 森本 千裕

フィリピン・マニラで開催された第26回アジア・オセアニア産婦人科連合 (AFOG) において Yuji Murata Endowment Awardを受賞しました。この賞は JOGR で過去2年間に発表された最高の論文に送られます。受賞論文「Effects of noise exposure on neonatal auditory brainstem response thresholds in pregnant guinea pigs at different gestational periods」では、妊娠初期・中期・後期の騒音曝露が、胎児聴覚に及ぼす影響について報告しました。

受賞にあたり御指導ならびに御協力くださった先生方に深く感謝申し上げます。



11.13 2019年度先進医薬研究振興財団・循環
医学分野一般研究助成を受賞しました

脳神経内科学 教授 杉江 和馬

このたび、「Danon病における心筋症とオートファジー機能異常の機序解明」を研究テーマとして、2019年度公益財団法人先進医薬研究振興財団・循環医学分野一般研究助成 (100万円) を受賞しました。本研究課題は、私が長年研究してきましたDanon病における心筋症とその発症要因であるオートファジー機能異常における基礎的および臨床的研究で、筋変性機序の解明を目指します。本受賞を励みとして、神経筋疾患の予後改善に向けて、今後さらに研究および診療に邁進してまいります。



11.15 令和元年度医学教育等関係業務
功労者賞を受賞しました

看護部 看護主査 田淵 廣美

この度、令和元年医学教育等関係業務功労者賞を受賞させていただきありがとうございます。

今回このような栄誉ある賞を受賞することが出来たのも長い看護師生活の中で多くの方々のご支援、ご指導のおかげと感謝しております。令和元年という記念ある年にこのような賞を受けられたことを心の糧として今後も看護職に邁進して行きたいと思っております。



11.21 第33回日本泌尿器内視鏡学会総会
総会賞を受賞しました

泌尿器科学 助教 三宅 牧人

国立京都国際会館で行われた第33回日本泌尿器内視鏡学会総会において、『総会賞』を受賞いたしました。演題は、「膀胱上皮内癌を対象としたMRI融合PDD-TURBT確立へ向けた統合的画像診断精度の検討」です。膀胱癌



の経尿道的内視鏡手術 (TURBT) における光力学診断技術 (PDD) の発達は、これまで見逃されていた平坦な上皮内癌病変に対する診断能は格段に上昇させました。一方で、それによる膀胱組織の過剰切除や手術時間の延長など課題も多く残ります。今回、至適手術の実現へ向けた取り組みとして、手術前の造影MRI検査の情報と術中の光力学診断の所見を融合する新規技術の可能性を報告しました。本受賞は、放射線科丸上永晃先生はじめ、多く方のご指導・ご支援を賜りました結果です。この場をお借りして、皆様方に厚く御礼申し上げます。



Winner Report

11.22 ~ 24 第27回日本消化器関連学会週間 (JDDW 2019) でポスター優秀演題賞及び若手奨励賞を受賞しました

消化器・総合外科学 診療助教 中川 顕志

11月22日～24日に開催された第27回日本消化器関連学会週間においてポスター優秀演題賞及び若手奨励賞を受賞しました。演題「膵癌術前治療による薬剤性肺障害が術後と予後に与える影響」は、近年膵癌治療で注目されている術前治療における有害事象を検証し、安全性と予後向上を目指した臨床研究です。庄雅之教授をはじめ御指導を賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。本受賞を励みとして、益々臨床・研究に励む所存です。



11.22 ~ 24 第27回日本消化器関連学会週間 (JDDW 2019) で若手奨励賞を受賞しました

消化器・総合外科学 病院助教 中村 広太

11月22～24日に開催された第27回日本消化器関連学会週間において「胆汁内細菌に由来する術後腹水感染と膵頭十二指腸切除術後膵液瘻の関連」が、若手奨励賞を受賞しました。胆汁内の特定の菌種が、膵液瘻の重要な危険因子である事を報告しました。今回の受賞を励みとして、今後もさらに基礎・臨床研究に励む所存です。本研究にあたり多大なる御指導を賜りました庄雅之教授、研究に御協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。



11.22 ~ 24 第27回日本消化器関連学会週間 (JDDW 2019) で若手奨励賞を受賞しました

消化器・総合外科学 医員 佐々木 義之
(現：大和高田市立病院勤務)

11月22日～24日に開催された第27回日本消化器関連学会週間において「Significance of herpesvirus entry mediator expression in human colorectal liver metastasis」が、若手奨励賞を受賞しました。HVEM発現が大腸癌肝転移における独立した予後因子であることを報告しました。今後はバイオマーカーとしてだけでなく新たな治療標的となる可能性があります。今後もさらに基礎・臨床研究に励む所存です。本研究にあたり御指導を賜りました庄雅之教授をはじめ、研究にご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。



11.22 ~ 24 第27回日本精神障害者リハビリテーション学会で野中賞 (最優秀賞) を受賞しました

精神医学 助教 盛本 翼

11月22日～24日に大阪で開催された第27回日本精神障害者リハビリテーション学会において、第6回野中賞を受賞しました。受賞した論文は「Computer-assisted cognitive remediation therapy increases hippocampal volume in patients with schizophrenia: a randomized controlled trial」という、統合失調症に対する認知機能リハビリテーションによる神経認知機能の改善と右海馬の灰白質容積の増大を示した研究です。リハビリテーションによる神経可塑性の可能性を示したことで、患者さんや治療者を勇気づける論文になって欲しいと考えています。



11.23 The 17th ISBS International Symposium on Blood Substitutes & Oxygen Therapeutics (XVII-ISBS-2019) において Young Excellent Abstract Awards を受賞しました

化学教室 助教 松平 崇

当研究室主催の国際学会 The 17th International Symposium on Blood Substitutes & Oxygen Therapeutics (XVII-ISBS-2019, 会場: 春日野国際フォーラム 豊, 会期: 11月21日～23日) において、超分子開環重合を利用した重合ヘモグロビンの合成に関する研究発表 (演題: Supramolecular ring-opening polymerization of hemoglobin and subsequent fixation using site-specific cross-linking within $\alpha_2\beta_2$ tetramers) が、Young Excellent Abstract Awards を受賞いたしました。本受賞を励みに、今後も研究を進めて参ります。ご指導頂きました酒井教授、山本准教授をはじめ、研究にご協力いただきました皆様に深謝いたします。



11.28

令和元年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者が決定しました

令和元年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者に、本学から下記の3名の先生方の受賞が決定しました。

奈良県医師会学術奨励賞は、奈良県における若き医学徒の学術を奨励するために、奈良県医師会により贈呈される賞です。

11月28日に奈良県医師会館にて授与式が行われ、受賞された先生方には、賞状及び金一封が贈呈されました。

毎年4月頃に応募案内を配布しています。若手研究者の方々の積極的なご応募をお待ちしております。



消化器内科学 佐藤慎哉助教



泌尿器科学 堀俊太 病院助教



耳鼻咽喉・頭頸部外科学 伊藤妙子 診療助教

12.18

令和元年度(第3回)若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定(国際交流センター)

令和元年度(第3回)若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、下記の3名に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、10万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。

皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

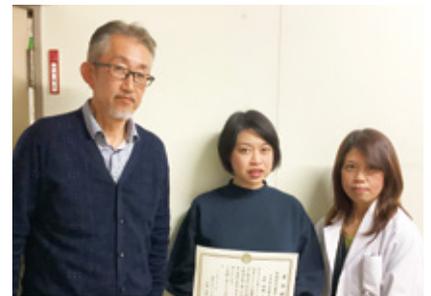
| 所属 | 職名 | 氏名 |
|-------------|----------|-------|
| 整形外科 | 大学院生(医員) | 山本 雄介 |
| 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 助教 | 岡安 唯 |
| 放射線医学 | 大学院生(医員) | 立入 哲也 |

12.20

国際ソロプチミスト奈良クラブ賞 女性研究者賞を受賞しました

第二解剖学 助教 竹村 晶子

この度国際ソロプチミスト奈良クラブ賞女性研究者賞を受賞し、2019年12月21日付の奈良新聞に掲載されました。私は偏った食事やストレス等を要因とした脳機能異常における免疫機能の役割に着目して研究しております。また、受賞時に子育てと研究を両立している点も激励されました。日頃の研究室の先生方のご指導、ご理解と女性研究者・医師支援センターのご支援に感謝申し上げます。



令和元年度 外部資金獲得状況

129件 409,168,705円(間接経費を含む)(令和元年12月1日現在) ※文部科学省科学研究費助成事業を除く

(1) 厚生労働科学研究費補助金

① 研究代表者

| 研究事業名 | 所属 | 職名 | 氏名 | 研究課題名 |
|-------------------------|-------|----|-------|--|
| 認知症政策研究事業 | 老年看護学 | 教授 | 澤見 一枝 | 外出が困難な認知症高齢者へのAIを用いた介入手法の開発と、遠隔AI操作によるコミュニティづくりの研究 |
| 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業 | 公衆衛生学 | 教授 | 今村 知明 | 循環器病の医療体制構築に資する自治体が活用可能な指標等を作成するための研究 |
| 政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業) | 公衆衛生学 | 教授 | 今村 知明 | 社会構造の変化を反映し医療・介護分野の施策立案に効果的に活用し得る国際統計分類の開発に関する研究 |
| 政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業) | 公衆衛生学 | 教授 | 今村 知明 | 新しいチーム医療等における医療・介護従事者の適切な役割分担についての研究 |
| エイズ対策政策研究事業 | 公衆衛生学 | 講師 | 野田 龍也 | HIV感染症を合併した血友病患者に対する全国的な医療提供体制に関する研究 |
| 食品の安全確保推進研究事業 | 公衆衛生学 | 教授 | 今村 知明 | 小規模な食品事業者における食品防御の推進のための研究 |

Winner Report

| | | | | |
|-------------------------------|------------|----|-------|--|
| 地域医療基盤開発推進研究事業 | 公衆衛生学 | 教授 | 今村 知明 | 地域の实情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究 |
| 難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業) | 公衆衛生学 | 講師 | 野田 龍也 | 指定難病患者データベース、小児慢性特定疾病児童等データベースと他の行政データベースとの連携についての研究 |
| 難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業) | リハビリテーション科 | 講師 | 眞野 智生 | 神経難病における中枢神経感作のメカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発 |

②研究分担者

| 研究事業名 | 所属 | 職名 | 氏名 | 研究課題名 | 研究代表者 |
|--------------------------------|-----------------|------|--------|--|----------------------------------|
| 認知症政策研究事業 | 麻酔科学 | 教授 | 川口 昌彦 | 外出が困難な認知症高齢者へのAIを用いた介入手法の開発と、遠隔AI操作によるコミュニティづくりの研究 | 老年看護学 澤見 一枝 |
| | 老年看護学 | 助教 | 木村 満夫 | | |
| 循環器疾患・糖尿病等 生活習慣病対策総合研究事業 | 公衆衛生学 | 准教授 | 赤羽 学 | 循環器病の医療体制構築に資する自治体が活用可能な指標等を作成するための研究 | 公衆衛生学 今村 知明 |
| | | 講師 | 野田 龍也 | | |
| | 脳神経外科学 | 教授 | 中瀬 裕之 | | |
| | | 学内講師 | 山田 修一 | | |
| 政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業) | 公衆衛生看護学 | 講師 | 小松 雅代 | 社会構造の変化を反映し医療・介護分野の施策立案に効果的に活用し得る国際統計分類の開発に関する研究 | 公衆衛生学 今村 知明 |
| 政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業) | 公衆衛生学 | 学内講師 | 岡本 左和子 | 新しいチーム医療等における医療・介護従事者の適切な役割分担についての研究 | 公衆衛生学 今村 知明 |
| | 麻酔科学 | 学内講師 | 内藤 祐介 | | |
| エイズ対策政策研究事業 | 病理診断学 | 医員 | 明神 大也 | HIV感染症を合併した血友病患者に対する全国的な医療提供体制に関する研究 | 公衆衛生学 野田 龍也 |
| | 糖尿病・ 内分泌内科学 | 医員 | 西岡 祐一 | | |
| 循環器疾患・糖尿病等 生活習慣病対策総合研究事業 | 公衆衛生学 | 教授 | 今村 知明 | 地域におけるかかりつけ医等を中心とした心不全の診療提供体制構築のための研究 | 日本心臓血管研究振興会 附属神原記念病院 磯部 光章 |
| 食品の安全確保推進研究事業 | 公衆衛生学 | 准教授 | 赤羽 学 | 小規模な食品事業者における食品防御の推進のための研究 | 公衆衛生学 今村 知明 |
| 地域医療基盤開発推進研究事業 | 公衆衛生学 | 講師 | 野田 龍也 | 地域の实情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究 | 公衆衛生学 今村 知明 |
| がん対策推進総合研究事業 | 消化器・ 総合外科学 | 教授 | 庄 雅之 | 希少癌診療ガイドラインの作成を通じた医療提供体制の質向上 | 名古屋大学 小寺 泰弘 |
| 地域医療基盤開発推進研究事業 | 公衆衛生学 | 講師 | 野田 龍也 | ドクターヘリの適正利用および安全運航に関する研究 | 東海大学 猪口 貞樹 |
| 食品の安全確保推進研究事業 (カネミ油症に関する研究) | 公衆衛生学 | 准教授 | 赤羽 学 | 食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究 | 九州大学 古江 増隆 |
| 難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業) | 看護部 | 技師 | 久保 慎一郎 | 指定難病患者データベース、小児慢性特定疾病児童等データベースと他の行政データベースとの連携についての研究 | 公衆衛生学 野田 龍也 |
| | 公衆衛生看護学 | 講師 | 小松 雅代 | | |
| 政策科学総合研究事業 (統計情報総合研究事業) | 病理診断学 | 医員 | 明神 大也 | 死因統計の精度及び効率性の向上に資する機械学習の検討に関する研究 | 東京大学 今井 健 |
| 難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業) | 皮膚科学 | 教授 | 浅田 秀夫 | 重症多形滲出性紅斑に関する調査研究 | 島根大学 森田 栄伸 |
| 地域医療基盤開発推進研究事業 | 公衆衛生学 | 教授 | 今村 知明 | 医療の質評価の全国展開を目指した調査研究 | 聖路加国際大学 福井 次久 |
| 新興・再興感染症及び 予防接種政策推進研究事業 | 感染症センター | 病院教授 | 笠原 敬 | 成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの構築に関する研究 | 富山県衛生研究所 大石 和徳 |
| 難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業) | 脳神経内科学 | 教授 | 杉江 和馬 | スモンに関する調査研究 | 国立病院機構鈴鹿病院 小長谷 正明 |
| 難治性疾患等克服研究事業 (難治性疾患克服研究事業) | 脳神経内科学 | 教授 | 杉江 和馬 | 希少難治性筋疾患に関する調査研究 | 東北大学 青木 正志 |
| 難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業) | 輸血部 | 教授 | 松本 雅則 | 血液凝固異常症等に関する研究 | 慶應義塾大学 村田 満 |
| 政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業) | 公衆衛生学 | 講師 | 野田 龍也 | 医療・介護のデータの利活用の促進のための、NDB・介護DBの連結可能性及び活用可能性の評価に関する研究 | 京都大学 加藤 源太 |
| | | 教授 | 今村 知明 | | |
| エイズ対策政策研究事業 | 公衆衛生学 | 講師 | 野田 龍也 | HIV感染症における医療経済的分析と将来予測に資する研究 | 千葉大学 谷口俊文 |
| 政策科学総合研究事業 (統計情報総合研究事業) | 公衆衛生学 | 講師 | 野田 龍也 | NDBデータから患者調査各項目及びOECD医療の質指標を導くためのアルゴリズム開発にかかる研究 | 京都大学 加藤 源太 |
| 地域医療基盤開発推進研究事業 | 公衆衛生学 | 講師 | 野田 龍也 | 救急医療体制の推進に関する研究 | 救急振興財団 山本 保博 |
| 難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業) | 疫学・予防医学 | 教授 | 佐伯 圭吾 | 難治性血管炎に関する調査研究 | 東京女子医科大学 針谷 正祥 |
| 地域医療基盤開発推進研究事業 | 薬剤部 | 副部長 | 池田 和之 | 医療安全に資する病院情報システムの機能を普及させるための施策に関する研究 | 大阪大学 松村 泰志 |
| | 医療情報部 | 病院教授 | 玉本 哲郎 | | |
| 難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業) | 循環器内科学 | 教授 | 斎藤 能彦 | 特発性心筋症に関する調査研究 | 九州大学 尚井 裕之 |
| 難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業) | 耳鼻咽喉・ 頭頸部外科学 | 教授 | 北原 紘 | 難治性聴覚障害に関する調査研究 | 信州大学 宇佐美真一 |

| | | | | | |
|----------------------------|------------|------|-------|---|-----------------------|
| 肝炎等克服政策研究事業 | 消化器内科学 | 教授 | 吉治 仁志 | 肝がん・重度肝硬変の治療に係るガイドラインの作成等に資する研究 | 東京大学 小池 和彦 |
| 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業 | 循環器内科学 | 学内講師 | 添田 恒有 | 循環器病の医療体制構築に資する自治体が活用可能な指標等を作成するための研究 | 公衆衛生学 今村 知明 |
| 難治性疾患等政策研究事業 | 公衆衛生看護学 | 講師 | 小松 雅代 | 成育医療からみた小児慢性特定疾病対策の在り方に関する研究 | 国立成育医療研究センター 賀藤 均 |
| 健康安全・危機管理対策総合研究事業 | 疫学・予防医学 | 教授 | 佐伯 圭吾 | 地域保険における保健所に求められる役割の明確化に向けた研究 | 浜松医科大学 尾島 俊之 |
| 地域医療基盤開発推進研究事業 | 栄養管理部 | 病院教授 | 吉川 雅則 | 持続陽圧 (CPAP, ASV) 治療管理開始時からの治療状況確認と自己学習を含めた患者・医療機関相互方向の遠隔医療の試み | 京都大学 陳 和夫 |
| 難治性疾患等克服研究事業 (難治性疾患克服研究事業) | 整形外科学 | 准教授 | 谷口 晃 | 早老症の医療水準やQOL向上を目指す集学的研究 | 千葉大学 横手 幸太郎 |
| 厚生労働科学特別研究事業 | 疫学・予防医学 | 教授 | 佐伯 圭吾 | 健康増進のための住環境についての研究 | 国立保健医療科学院 林 基哉 |
| 難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業) | リハビリテーション科 | 講師 | 眞野 智生 | スモンに関する調査研究 | 国立病院機構鈴鹿病院 小長谷 正明 |
| 厚生労働科学特別研究事業 | 公衆衛生学 | 教授 | 今村 知明 | 循環器病の診療情報収集・活用のための登録様式等の詳細に係る研究 | 国立循環器病研究センター 望月 直樹 |

(2) 経済産業省

| 研究事業名 | 所属 | 職名 | 氏名 | 研究課題名 |
|----------------|-------|----|--------|---|
| 戦略的基盤技術高度化支援事業 | 放射線医学 | 講師 | 西尾福 英之 | CT検査時に医師の被ばくをなくし、患者体形に合わせた正確な検体採取とその場で細胞診断が出来るマイクロチップ搭載可能な多機能保持具の開発 |

(3) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)

① 研究代表者

| 研究事業名 | 所属 | 職名 | 氏名 | 研究課題名 |
|--|--------|-----|-------|---|
| 難治性疾患実用化研究事業 | 輸血部 | 教授 | 松本 雅則 | 機械的補助循環に合併する後天性 von Willebrand 症候群の治療法の開発 |
| 戦略的国際脳科学研究推進プログラム (若手研究型) | 未来基礎医学 | 准教授 | 森 英一朗 | 筋萎縮性側索硬化症の病態発症に関連した毒性ポリペプチドに関する研究開発 |
| 再生医療実現拠点ネットワークプログラム (幹細胞・再生医学イノベーション創生プログラム) | 脳神経内科学 | 助教 | 松井 健 | 血管化ヒト脳オルガノイドを用いた脳組織再生技術の確立 |
| 橋渡し研究戦略的推進プログラム補助事業 (大阪大学拠点) | 公衆衛生学 | 准教授 | 赤羽 学 | 骨形成促進効果を持つ機能的生体材料の開発に関する基礎研究 (シリーズA) |
| 橋渡し研究戦略的推進プログラム補助事業 (大阪大学拠点) | 産婦人科学 | 教授 | 小林 浩 | 分子表面を覆うバンドエイド型ペプチドを用いた低分子医薬品の開発 (シリーズA) |
| 橋渡し研究戦略的推進プログラム補助事業 (大阪大学拠点) | 脳神経内科学 | 助教 | 松井 健 | ヒト中脳の黒質構造を短期間に再現可能なオルガノイド樹立法の開発 (シリーズA) |

② 研究分担者

| 研究事業名 | 所属 | 職名 | 氏名 | 研究課題名 | 研究代表者 |
|--|------------------|-------------|-----------------------|---|-----------------------------|
| 難治性疾患実用化研究事業 | 輸血部 | 助教 | 早川 正樹 | 機械的補助循環に合併する後天性 von Willebrand 症候群の治療法の開発 | 輸血部 松本 雅則 |
| 戦略的国際脳科学研究推進プログラム (若手研究型) | 生体分子不均衡制御学共同研究講座 | 助教 (共同研究講座) | Wiriyasermkul Pattama | 筋萎縮性側索硬化症の病態発症に関連した毒性ポリペプチドに関する研究開発 | 未来基礎医学 森 英一朗 |
| 再生医療実現拠点ネットワークプログラム (幹細胞・再生医学イノベーション創生プログラム) | 生体分子不均衡制御学共同研究講座 | 助教 (共同研究講座) | Wiriyasermkul Pattama | 血管化ヒト脳オルガノイドを用いた脳組織再生技術の確立 | 脳神経内科学 松井 健 |
| 革新的先端研究開発支援事業 (CREST) | 物理学 | 講師 | 高木 拓明 | 一分子・質量イメージング顕微鏡の開発と細胞膜機能解析 | 大阪大学 上田 昌宏 |
| 革新的先端研究開発支援事業 (CREST) | 生体分子不均衡制御学共同研究講座 | 教授 (共同研究講座) | 永森 収志 | 機械受容応答を支える膜・糖鎖環境の解明と筋疾患治療への展開 | 神戸大学 金川 基 |
| 難治性疾患実用化研究事業 | 脳神経内科学 | 教授 | 杉江 和馬 | ベッカー型筋ジストロフィーの自然歴調査に基づく予防医学に向けたエビデンスの創出研究 | 国立病院機構まつもと医療センター 中村 昭則 |
| 医薬品等規制調和・評価研究事業 | 皮膚科学 | 教授 | 浅田 秀夫 | 官民共同による重篤副作用バイオマーカー開発 | 木原記念横浜生命科学 振興財団 大野 泰雄 |
| 革新的医療シーズ実用化研究事業 | 化学 | 教授 | 酒井 宏水 | 備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の臨床への橋渡し研究 | 旭川医科大学 東 寛 |
| 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業 | 循環器内科学 | 学内講師 | 添田 恒有 | 急性大動脈解離症前造影CT画像の解析 | 杏林大学 吉野 秀朗 |
| 感染症実用化研究事業肝炎等克服実用化研究事業肝炎等克服緊急対策研究事業 | 消化器内科学 | 教授 | 吉治 仁志 | C型肝炎ウイルス排除治療による肝硬変患者のアウトカムに関する研究 | 大阪大学 竹原 徹郎 |
| 難治性疾患実用化研究事業 | 輸血部 | 教授 | 松本 雅則 | 非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS) の複合的アプローチによる診断と治療向上に関する研究 | 東京大学 加藤 秀樹 |
| ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業 | 循環器内科学 | 教授 学内講師 | 斎藤 能彦 尾上 健児 | マルチオミクス連関による循環器疾患における次世代型精密医療の実現 | 東京大学 小室 一成 |

Winner Report

| | | | | | |
|--|-----------------------|------------------------|---------------------------------|--|---------------------------|
| 女性の健康の包括的支援実用化研究事業 -Wise | 産婦人科学 | 教授 | 小林 浩 | 多面的アプローチによる子宮内膜症、子宮腺筋症の病態解明、および予防・治療法の開発 | 東京大学 大須賀 穣 |
| 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業 | 循環器内科学 | 学内講師 | 尾上 健児 | DNA 損傷応答・核形態の機械学習による心不全の予後・治療応答予測モデルの構築 | 東京大学 小室 一成 |
| 橋渡し研究戦略的推進プログラム | 生体分子不均衡制御学共同研究講座 | 教授(共同研究講座) | 永森 収志 | がん特異的アミノ酸輸送体阻害作用を有する抗がん剤の臨床 POC 取得 | 大阪大学 竹原 徹郎 |
| 長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業(精神障害分野) | 精神医学 | 助教 | 松田 康裕 | オリジナルソフトによる認知機能リハビリテーションと援助付き雇用を組み合わせた精神障害者の就労や職場定着の支援の効果の検証と普及方法の開発 | 国立精神・神経医療研究センター 佐藤 さやか |
| 感染症実用化研究事業 肝炎等克服実用化研究事業 B型肝炎創薬実用化等研究事業 | 生体分子不均衡制御学共同研究講座 | 教授(共同研究講座) | 永森 収志 | B型肝炎ウイルス(HBV)感染サイクル(生活環)で機能する宿主・ウイルス因子を標的とした新規抗HBV剤・HBV感染制御法の開発 | 大阪大学 上田 啓次 |
| 難治性疾患実用化研究事業 | 小児科学 | 准教授 | 野上 恵嗣 | 特発性血栓症患者のゲノム情報を用いた層別化による病態解明研究 | 国立循環器病研究センター 辻 明宏 |
| 感染症実用化研究事業 肝炎等克服実用化研究事業 B型肝炎創薬実用化等研究事業 | 生体分子不均衡制御学共同研究講座 | 教授(共同研究講座) | 永森 収志 | 次世代抗B型肝炎ウイルス薬導出に向けた創薬研究 | 理化学研究所 小嶋 聡一 |
| 腎疾患実用化研究事業 | 腎臓内科学 | 教授 | 鶴屋 和彦 | 診療連携・国際連携をも視野にいた、生活習慣病、CKDの診療の質向上に直結する多施設長期コホート研究 | 筑波大学 山縣 邦弘 |
| 感染症実用化研究事業 肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業 | 腎臓内科学 | 教授 | 鶴屋 和彦 | 多施設共同研究による移植後肝炎ウイルス再発に対する標準的治療の確立 | 福岡歯科大学 前原 喜彦 |
| 難治性疾患実用化研究事業 | 輸血部 | 教授 | 松本 雅則 | 植込型補助人工心臓装着後の出血性合併症予知法および予防法の確立に関する研究 | 東北大学 齋木 佳克 |
| 感染症実用化研究事業 エイズ対策実用化研究事業 | 小児科学 | 教授 | 嶋 緑倫 | HIV 関連病態としての血友病の根治を目指した次世代治療法・診断法の創出 | 自治医科大学 大森 司 |
| 感染症実用化研究事業 エイズ対策実用化研究事業 | 健康管理センター | 病院教授 | 古西 満 | ART 早期化と長期化に伴う日和見感染症への対処に関する研究 | 国立国際医療研究センター 照屋 勝治 |
| 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業 | 循環器内科学 | 学内講師 講師 | 添田 恒有 渡邊 真言 | 光干渉断層イメージングのAI解析に基づく急性心筋梗塞発症予測法の開発 | 川崎医科大学 上村 史朗 |
| 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業 | 臨床研究センター | 教授 看護部長 講師 助教 | 笠原 正登 伊藤 雪絵 笠間 周 鈴木 渉太 | FGM/CGMの血糖管理における精度・有用性の検証及び健康寿命促進のための血糖変動指標の探索 | 国立循環器病研究センター 細田 公則 |
| 難治性疾患実用化研究事業 | 循環器内科学 | 教授 | 斎藤 能彦 | 拡張相肥大型心筋症を対象とした多施設登録研究 | 九州大学 筒井 裕之 |
| 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業 | 循環器内科学 | 講師 | 川上 利香 | 心不全の発症・重症化の高精度予測とそれに基づく最適な治療戦略の開発 | 九州大学 筒井 裕之 |
| 難治性疾患実用化研究事業 | 小児科学 総合周産期母子医療センター | 教授 病院教授 | 嶋 緑倫 西久保 敏也 | 新生児・乳児に発症する特発性血栓症の病態解明および治療管理法と根治療法の確立に関する研究 | 九州大学 大賀 正一 |
| 革新的がん医療実用化研究事業 | 成人慢性期看護学 | 教授 | 田中 登美 | がん治療中のせん妄の発症予防を目指した多職種せん妄プログラムの開発 | 国立がん研究センター 小川 朝生 |
| 長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業(精神障害分野) | 精神医学 | 教授 | 岸本 年史 | 児童・思春期における心の健康発達・成長支援に関する研究 | 東邦大学 水野 雅文 |
| 難治性疾患実用化研究事業 | 循環器内科学 | 学内講師 | 尾上 健児 | ゲノム分子病理解析による難治性心筋症における精密医療の実現 | 東京大学 小室 一成 |
| 長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業(精神障害分野) | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 | 教授 | 北原 紘 | 慢性めまいの診断法確立とめまい指導の有用性に関する研究 | 聖マリアンナ医科大学 肥塚 泉 |
| 難治性疾患実用化研究事業 | 輸血部 | 教授 | 松本 雅則 | 高ずり応力を伴う循環器難病に伴う出血性合併症予知法の開発 | 東北大学 加齢医学研究所 堀内 久徳 |
| 腎疾患実用化研究事業 | 生体分子不均衡制御学共同研究講座 | 教授(共同研究講座) | 永森 収志 | 腎疾患におけるアミノ酸キラリティを標的とした分子病態の解明研究 | 金沢大学 和田 隆志 |
| 成育疾患克服等総合研究事業 | 小児科学 | 助教 | 榊原 崇文 | 新生児低酸素性虚血性脳症の生物学的マーカーの実用化に向けた臨床研究 | 国立精神・神経医療研究センター 伊藤 雅之 |
| 臨床研究等ICT基盤構築・人工知能実装研究事業 | 病理診断学 | 教授 | 大林 千穂 | 病理診断支援のための人工知能(病理診断支援AI)開発と統合的「AI医療画像知」の創出 | 日本病理学会 深山 正久 |
| 臨床研究等ICT基盤構築・人工知能実装研究事業 | 総合画像診断センター | 病院教授 | 平井 都始子 | 超音波デジタル画像のナショナルデータベース構築と人工知能支援型超音波診断システム開発に関する研究 | 近畿大学 工藤 正俊 |

(4) 国立研究開発法人 科学技術振興機構

| 研究事業名 | 所属 | 職名 | 氏名 | 研究課題名 | 研究代表者 |
|---------------------|-----------------|----------|--------|------------------------------|-----------------------|
| 戦略的創造研究推進事業(CREST) | 脳神経外科学 | 学内講師 | 田村 健太郎 | 脳表現空間インタラクション技術の創出 | 大阪大学 柳澤 琢史 |
| 戦略的創造研究推進事業(ERATO) | V-iClinX 講座 | 教授(寄附講座) | 佐藤 匠徳 | 佐藤ライブ予測制御プロジェクト | — |
| 戦略的創造研究推進事業(RISTEX) | MBT 研究所(理事長・学長) | 所長 | 細井 裕司 | 空き家活用によるまちなか医療の展開とまちなみ景観の保全 | 早稲田大学 後藤 春彦 |
| 戦略的創造研究推進事業(CREST) | 精神医学 | 博士研究員 | 岩坂 英巳 | 仮想エージェントによる個人適応された情動社会スキルの訓練 | 奈良先端科学技術大学院大学 中村 哲 |

| | | | | | |
|--|---------|-----|-------|--|---|
| 研究成果展開事業 世界に誇る地域発研究開発・実証拠点 (リサーチコンプレックス) 推進プログラム | 呼吸器内科学 | 准教授 | 山内 基雄 | ストレスや疾病状況を把握するための連続的かつ非拘束呼吸・循環モニターの開発 | — |
| 研究成果展開事業 世界に誇る地域発研究開発・実証拠点 (リサーチコンプレックス) 推進プログラム | 麻酔科学 | 教授 | 川口 昌彦 | 五感を利用した Effective Medical Creation (EMC) の実践 | — |
| 研究成果展開事業 世界に誇る地域発研究開発・実証拠点 (リサーチコンプレックス) 推進プログラム | 疫学・予防医学 | 教授 | 佐伯 圭吾 | 温度・光環境とサーガディアンリズムに関するコホート研究 | — |

(5) 公益財団法人全国競馬・畜産振興会

| 研究事業名 | 所属 | 職名 | 氏名 | 研究課題名 |
|---------------|-------|----|-------|--------------------------------------|
| 日本中央競馬会畜産振興事業 | 公衆衛生学 | 教授 | 今村 知明 | (オリンピック・パラリンピック) 東京大会における意図的異物混入対策事業 |

(6) 名張市

| 研究事業名 | 所属 | 職名 | 氏名 | 研究課題名 |
|-----------------------------|--------|----|-------|-----------------------------|
| 伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業 | 脳神経外科学 | 教授 | 中瀬 裕之 | 伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業 |

(7) その他 財団法人等

| 団体名等 | 所属 | 職名 | 氏名 | 研究課題名 |
|-------------------------|------------------|-------------|-----------------------|---|
| 公益財団法人大阪コミュニティ財団 | 眼科学 | 講師 | 吉川 匡宣 | 緑内障が生体リズムに及ぼす影響-前向きコホート研究ベースライン横断解析 |
| 公益財団法人江頭ホスピタリティ事業振興財団 | 臨床研究センター | 助教 | 鈴木 渉太 | 外国人患者が処方されたたくすりを適正に使用することを目指したメソッド「MOTENASHI」アプリ版の開発と調剤薬局における評価 (2年目) |
| 一般財団法人藤井節郎記念大阪基礎医学研究奨励会 | 眼科学 | 講師 | 吉川 匡宣 | 緑内障が生体リズムへ与える影響の解明 |
| 公益財団法人喫煙科学研究財団 | 免疫学 | 教授 | 伊藤 利洋 | 炎症性腸疾患動物実験モデルでの腸内細菌のメタゲノムならびに免疫学的解析とニコチン・喫煙による変化の検討 (5年目) |
| 公益財団法人喫煙科学研究財団 | 精神医学 | 学内講師 | 紀本 創兵 | 摂食障害モデルマウスにおける脳腸相関解析: $\alpha 7$ ニコチン性アセチルコリン受容体の役割 (2年目) |
| 公益財団法人三島海雲記念財団 | 解剖学第二 | 助教 | 竹村 晶子 | 高脂肪食がもたらす脳の炎症と肥満の関係-脳に侵入するマクロファージに着目して- |
| 一般社団法人日本泌尿器科学会 | 泌尿器科 | 助教 | 三宅 牧人 | 尿路上皮癌に対する抗癌薬物治療に伴う心筋・骨格筋障害および代謝障害の機序解明 |
| 公益財団法人武田科学振興財団 | 精神医学 | 学内講師 | 鳥塚 通弘 | 末梢血マクロファージとヒト iPS 細胞由来神経細胞を用いた精神疾患病態解析 |
| 公益財団法人喫煙科学研究財団 | 循環器内科学 | 教授 | 斎藤 能彦 | 循環器疾患における喫煙習慣と炎症の病態解明: 臨床および疫学による多面的研究 |
| 公益財団法人武田科学振興財団 | 発生・再生医学 | 教授 | 栗本 一基 | 組織学と統合された単一細胞遺伝子発現解析技術による生殖細胞の選択・淘汰過程の解明 |
| 公益財団法人日本応用酵素協会 | 循環器内科学 | 診療助教 | 中川 仁 | 心臓リモデリングに対する心臓局所のネプリライシンの役割についての検討 |
| ノバルティスファーマ株式会社 | 眼科学 | 講師 | 吉川 匡宣 | 緑内障が生体リズムへ与える影響の解明-前向きコホート研究横断分析- |
| ノバルティスファーマ株式会社 | 皮膚科学 | 講師 | 宮川 史 | SLEの病態形成に対する TNF/iNOS-producing DCの役割の解明 |
| ノバルティスファーマ株式会社 | 眼科学 | 教授 | 緒方 奈保子 | 加齢黄斑変性における全身状態および脈絡膜の病態と臨床像の関係 |
| ノバルティスファーマ株式会社 | 解剖学第一 | 教授 | 西 真弓 | 母子分離記憶の痕跡の可視化と成体での再活性化による想起-虐待が繰り返される神経基盤の解明- |
| ノバルティスファーマ株式会社 | 脳神経内科学 | 教授 | 杉江 和馬 | 自己貪食空胞性ミオパチーの骨格筋および中枢神経障害におけるオートファジー機構の解明 |
| ノバルティスファーマ株式会社 | 循環器内科学 | 学内講師 | 添田 恒有 | 人工知能 (Artificial intelligence) を用いた high risk プラークの同定 |
| ノバルティスファーマ株式会社 | 循環器内科学 | 学内講師 | 尾上 健児 | 急性心不全におけるクリニカルシナリオ 1 型心不全発症機序の解明 |
| ノバルティスファーマ株式会社 | 未来基礎医学 | 助教 | 七浦 仁紀 | 神経変性疾患における LC ドメイン制御異常の分子基盤の解明 |
| ノバルティスファーマ株式会社 | 呼吸器内科 | 助教 | 藤田 幸男 | COPDと閉塞性睡眠時無呼吸のオーバーラップ症候群における認知機能障害の検討-治療介入による認知機能障害抑制効果を期待して- |
| ノバルティスファーマ株式会社 | 脳神経内科学 | 助教 | 松井 健 | ヒト中脳・大脳皮質オルガノイドを用いた Mowat-Wilson 症候群の病態解明 |
| ノバルティスファーマ株式会社 | 未来基礎医学 | 准教授 | 森 英一朗 | 筋萎縮性側索硬化症関連の毒性ポリペプチドによる病態発症機序の解明 |
| ノバルティスファーマ株式会社 | 輸血部 | 教授 | 松本 雅則 | 心不全に対する治療法である機械的補助循環に合併する後天性 von Willebrand 症候群の治療法の開発 |
| 公益財団法人大阪難病研究財団 | 循環器内科学 | 医員 | 中野 知哉 | 非虚血性拡張型心筋症患者の左室逆リモデリング予測因子の検討 |
| 公益財団法人武田科学振興財団 | V-iCliniX 講座 | 助教 (寄附講座) | 谷口 委代 | マラリア感染の免疫記憶形成に果たす腸内細菌の役割 |
| 一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 | 循環器内科学 | 大学院生 | 金岡 幸嗣朗 | 医療・介護・健診レセプトを用いた、心血管疾患発症前のリスク管理の実態把握に関する研究 |
| 公益財団法人 MSD 生命科学財団 | 未来基礎医学 | 准教授 | 森 英一朗 | Desmin 異常による心筋症の生化学的研究 (2年目) |
| 公益財団法人天田財団 | 整形外科 | 博士研究員 | 古川 彰 | レーザー接合による PEEK 製脊椎インプラントの骨癒合性改良研究 |
| MSD 株式会社 | 腎臓内科学 | 助教 | 江里口 雅裕 | Nepriylisin による糖尿病性腎症の進展に与える影響の解明 |
| MSD 株式会社 | 消化器内科学 | 助教 | 下里 直隆 | 進行肝細胞癌の全身化学療法における DPP4 阻害薬併用による腫瘍抑制効果増強の基礎的研究 |
| 公益財団法人持田記念医学薬学振興財団 | 生体分子不均衡制御学共同研究講座 | 助教 (共同研究講座) | Wiriyasermkul Pattama | アミノ酸トランスポーターを標的とした創薬のための構造機能解析 |
| 公益財団法人かなえ医薬振興財団 | 精神医学 | 助教 | 山室 和彦 | 注意欠如多動症と自閉スペクトラム症併存の神経基盤の解明と治療効果予測を目指して |

公開講座情報

令和元年度 県民公開講座 「女性のための健康講座」

開催日時：令和2年3月1日(日) 14:00～16:00
場 所：奈良商工会議所
概 要：女性の健康週間に学びプロダクティブヘルスとは～これからの自分のために、いまできること～
対 象：県民
備 考：事前申込必要(当日参加可能) 参加無料
問合せ先：奈良県産婦人科医会公開講座係
 TEL 0744-22-8502 FAX 0744-23-7796

「第15回地域医療連携懇話会」

開催日時：令和2年3月14日(土) 14:00～16:00
場 所：奈良県立医科大学 大講堂
概 要：①アドバンスケア・プランニング(ACP)の実践と課題
 ②診療報酬改定の最新情報
講 演 者：①一般社団法人奈良県医師会 副会長 安東 範明
 ②奈良県立医科大学公衆衛生学講座 教授 今村 知明
対 象：医療従事者
備 考：事前申込必要 参加無料
問合せ先：地域医療連携室 TEL 0744-29-8022 (直通)
 FAX 0744-23-9923 (直通)
 E-mail c-office@naramed-u.ac.jp

「未来への飛躍基金」 寄附金控除等の仕組みについて

日頃は「未来への飛躍基金」に対しご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
 基金への寄附方法の1つである奈良県へのふるさと納税を利用した場合の寄附金控除の仕組みを簡単に紹介しますので、参考の一助としていただき、引き続き協力を賜りますようよろしくお願い致します。

給与収入700万円(所得税50万円・住民税3万円/月を納付)の方がワンストップ特例制度を活用し、令和2年3月に10万円寄附した場合 → **令和3年に住民税の控除が受けられます。**

| | 令和2年 | 令和3年 | 計 |
|---|--|--|--|
| 寄附をしないとき | 寄附者 住民税3万円/月 (年36万円) → 納税 住民税：36万円 所得税：50万円 合計：86万円 | 寄附者 住民税3万円/月 (年36万円) → 納税 住民税：36万円 所得税：50万円 合計：86万円 | 2年間の合計 172万円 |
| ふるさと納税により寄附をする場合 <small>※ワンストップ特例制度(確定申告をしない)を希望</small> | 寄附者 奈良医大へ 寄附10万 → 奈良医大 住民税3万円/月 (年36万円) → 納税 寄附額：10万円 住民税：36万円 所得税：50万円 合計：96万円 | 寄附者 住民税 約21,833円/月 (年26万2千円) → 納税 住民税：26万2千円 所得税：50万円 合計：76万2千円 | 2年間の合計 172万2千円 年間98,000円が控除されます。 つまり2千円を負担していただくことで奈良医大へ10万円の寄附が可能です。 |

※上記は、確定申告を行わずワンストップ特例制度を活用した場合の例です。確定申告をする場合、所得税の還付と住民税の控除を受けることができ、上記と同様に2千円の負担で10万円の寄附が可能です。なお、ワンストップ特例制度は確定申告を要する方については適用されませんのでご注意ください。
 ※実質2千円で寄附可能な上限額は、ご自身の給与等によって異なります。基金パンフレット及びHPに掲載している目安表等をご確認いただきますようお願いいたします。
 ※住民税の控除額については、寄附をした翌年6月頃に勤務先から、もしくはお住まいの市区町村から郵送される「住民税決定通知書」でご確認いただけます。

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

基金創設以来、令和2年1月までに累計2,909件のご寄附をいただいております。

なお、今号では、令和元年11月～令和2年1月にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

【個人】

◆1,000万円以上

前田 稔 様 矢野 博丈 様

◆100万円以上1,000万円未満

井内 昌子 様 大鶴 昇 様 大西 英之 様
木下 尊雄 様 高比 康臣 様 西川 潔 様
花房 太郎 様 平野 貞治 様 牧之段 潔 様

◆30万円以上100万円未満

稲垣 有佐 様 植田 充治 様 宇野 健司 様
浦元 弘樹 様 岡林 正純 様 小川 淳司 様
河村 健二 様 北村 弥 様 北山勘解由 様
斎藤 能彦 様 櫻井 立良 様 嶋 緑倫 様
庄 雅之 様 新名 直樹 様 長 澄人 様
鶴屋 和彦 様 寺田 秀興 様 中嶋 敏勝 様
中島 英彦 様 南淵 明宏 様 南淵 芳 様
浪崎 正 様 奈良 成夫 様 野上 恵嗣 様
野中 秀郎 様 橋本 俊雄 様 長谷川正俊 様
林 需 様 堀 謙輔 様 村田 省吾 様
森本 勝彦 様 山中 敏彰 様 山吉 滋 様
米田 龍生 様

掲載を希望されないご寄附者様 8名

◆10万円以上30万円未満

浅川 勇雄 様 飯田 順三 様 五十嵐稔子 様
池田 直也 様 生駒 一憲 様 石澤美保子 様
伊藤 利洋 様 井上 毅 様 今井雄一郎 様
上平 悦子 様 鷓山 秀人 様 大下麻由美 様
岡本 忠幸 様 小川 宗宏 様 奥村 元昭 様
奥山 節彦 様 笠原 正登 様 粕田 承吾 様
川口 昌彦 様 川手 健次 様 北田 力 様
北村 華奈 様 北村 久子 様 北村 里奈 様
城戸 颯 様 小味淵智雄 様 下村 隆英 様
田中 末子 様 中川 裕介 様 西尾 健治 様
西川千香子 様 西村 忠己 様 野見 武男 様
野村 泰充 様 萩野平八郎 様 日野 晃治 様
北東 大督 様 堀江 恭二 様 三井 良之 様
南 淳子 様 三宅 邦仁 様 宮崎 弘志 様
森藤 哲章 様 山川 博文 様 山本 和典 様
吉川 高宏 様

掲載を希望されないご寄附者様 18名

◆10万円未満

井内 清美 様 伊藤 直 様 伊藤 妙子 様
植松 聡 様 大上 幸宏 様 大塚智佳子 様
大塚 尚 様 小川 佳宏 様
Ghashut Rima A Suliman 様 形岡 博史 様
河野 悌司 様 行天 啓二 様 近藤 秀明 様
榭 徳子 様 佐々木義明 様 階戸 精一 様
嶋田 正廣 様 上田 智徳 様 高木 忠隆 様
竹中 要一 様 田中美千子 様 近山 達 様
中野 知哉 様 野本 和章 様 濱田 薫 様
早藤ゆかり 様 平尾 具子 様 福住 房子 様
フランチェスコ ボルスタッド 様 保田健太郎 様
山田 嘉彦 様 山本 公弘 様 横谷 倫世 様
掲載を希望されないご寄附者様 40名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

赤坂 咲恵 様 赤坂珠理晃 様 荒木 正史 様
石田由佳子 様 岩井 篤史 様 上田 耕司 様
應田 義雄 様 大倉 宏之 様 岡崎 愛子 様
面川 庄平 様 春日 宏友 様 桐田 忠昭 様
黒田 一成 様 小林 信彦 様 小山 文一 様
近藤 祐介 様 佐伯 圭吾 様 佐々木 司 様
沢田 泉 様 芝野 匡志 様 島田 真吾 様
島屋 正孝 様 正畠 千夏 様 辰巳 満俊 様
谷口 晃 様 辻 力夫 様 土田 容子 様
永瀬 允幸 様 西岡 崇 様 西村 洋 様
長谷川 新 様 藤本 隆 様 前川 尚宜 様
村澤 宏和 様 毛利 純子 様 藪本 明広 様
山崎 正晴 様 吉田 守 様 吉峰 正 様

【法人・企業】

◆100万円以上

奈良県立医科大学消化器内科学講座同門会 様

◆30万円以上100万円未満

公立大学法人奈良県立医科大学労働組合 様

◆10万円以上30万円未満

掲載を希望されないご寄附者様 1法人

◆10万円未満

掲載を希望されないご寄附者様 1法人
(五十音順)

ご寄附いただいた方のご芳名については、本学「未来への飛躍」基金HP (<http://www.naramed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>) に掲載しております。

Media Listing Information

メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

| 日付 | 媒体 | 対象者 | 掲載概要 |
|-------|---|--------------|------------------------|
| 2019年 | 7月29日 日経メディカル | 口腔外科学 | 教授 桐田 忠昭 |
| | 10月23日 m3 | | |
| | 10月25日 関西テレビ「報道ランナー」 | 脳神経外科 | 病院教授 朴 永銖 |
| | 10月30日 奈良テレビ「ゆうドキッ！」 NHK 奈良「ならナビ」 | | |
| | 10月30日 日本経済新聞 | MBT 研究所 | |
| | 10月31日 奈良新聞 | | |
| | 11月9日 奈良テレビ 「県民だより ならいいね！」 | 医師・患者関係学 | 教授 石井 均 |
| | 11月1日 英国ロイター通信電子版 | 脳神経外科疫学・予防医学 | 准教授 形岡 博史 准教授 大林 賢史 |
| | 11月3日 英国デイリー・ メール電子版 | 疫学・予防医学 | 准教授 大林 賢史 |
| | 11月4日 関西テレビ「報道ランナー」 11月11日 関西テレビ「ザ・ドキュメント」 | 脳神経外科 | 病院教授 朴 永銖 |
| | 11月6日 産経新聞 11月8日 読売新聞 | 附属病院 | |
| | 11月13日 毎日新聞電子版 | 疫学・予防医学 | 准教授 大林 賢史 |
| | 11月14日 ラジオ大阪「慶元まさ美の ハッピー・プラス」他3件 | 地域医療学講座 | 教授 赤井 靖宏 |
| | 11月14日 ラジオ大阪「慶元まさ美の ハッピー・プラス」他3件 | 栄養管理部 | 係長 山口 千影 |
| | 11月14日 ラジオ大阪「グッドアフタ ヌーン！ #ラジぐう」 | 医療技術センター | 係長 田中 秀和 |
| | 11月19日 毎日新聞 | 口腔外科学 | 講師 川上 正良 |
| | 11月20日 インターネット「グノシー」 | | 名誉教授 大崎 茂芳 |
| | 11月24日 BSフジ「ガリレオX」 | | 名誉教授 大崎 茂芳 |
| | 11月25日 奈良新聞 | 消化器内科学 | 講師 赤羽たけみ |
| | 11月26日 奈良新聞 | 理事長・学長 細井 裕司 | |
| | 12月1日 ラジオ・NHK「ラジオ深夜便」 | | 名誉教授 大崎 茂芳 |
| | 12月2日 奈良テレビ「ゆうドキッ！」 | | |
| | 12月3日 奈良テレビ「ゆうドキッ！」 | 消化器内科学 | 講師 赤羽たけみ |
| | 12月4日 奈良新聞 | | |
| | 12月7日 奈良新聞 | 消化器内科学 | 教授 吉治 仁志 |
| | 12月21日 奈良新聞 | 解剖学第二 | 助教 竹村 晶子 |

編集後記

冬も深まり、春の到来が待ち遠しい季節となりました。今年もインフルエンザが猛威をふるっていますが、お変わりありませんか。今号の表紙写真は、附属病院の取り組みの一つである「病院快適環境プロジェクト」の活動の様子を掲載しました。詳しくは、6ページで紹介されていますが、入院中の患者さんが少しでも快適に過ごせるよう、通常的生活同様に五感等を刺激する環境を提供することで、患者さんの早期回復や家族及び医療スタッフのストレス軽減にもつながると考えています。今後も、様々な取り組みをして参りますので、皆様の一層のご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。



このページに広告を掲載しませんか？くわしくはこちら

→ <http://www.named-u.ac.jp/university/gaiyo/shokai/gakuho/index.html>

学報バックナンバーはwebサイト上でもご覧いただけます。(<http://www.named-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html>)